

## 和仏法律学校講義録

松波, 仁一郎 / 鶴見, 守義 / 梅, 謙次郎 / 鶴, 丈一郎 / 加藤, 正治 / 田中, 遜

---

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

11

(号 / Number)

高等科

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

63

(発行年 / Year)

1903-06-12



（明治三十五年十一月四日第三種郵便物認可 毎月十九日一日五日六日八日十日十一日十二日十三日十五日十六日十七日十八日廿一日廿二日廿三日廿四日廿五日廿六日廿七日廿八日廿九日三十日發行）

明治三十六年六月十二日發行

三十六年度 高等科ノ十一

和佛法律學子找講義錄

第百貳拾號

和佛法律學校

高等科第十一號目次

民法

○代理ノ性質及ヒ代理權ノ授與ニ關スル推問竝ニ講演……………法學博士 梅 謙次郎

○隱居ノ無効ニ關スル推問……………法律學士 鶴 丈一郎

○婚姻ニ關スル推問……………法律學士 鶴 丈一郎

商法

○備船契約論 其二……………法學士 加藤 正治

○海法ノ沿革ニ付テノ講演……………法學博士 松波仁一郎

刑事訴訟法

○被告人ノ死亡ト附帶私訴トノ關係、私訴ノミノ控訴ノ場合、  
裁判所ニ於ケル用語及ヒ一事不再理ノ原則等ニ關スル推問……………法律學士 鶴見 守義

○羅馬法(自一六五頁至一七六頁)……………  
田 中 遜

雜報

○最近判例要旨彙報  
(正誤 刑法五七頁六行「手続」ハ「手續」當案)  
批評四〇頁七行「案斷」ハ「斷案」ノ誤)

090  
1903  
4-11

民法 代理ノ性質及ヒ代理權ノ授與ニ關スル推問竝ニ講演……………

梅 謙次郎

民法 隱居ノ無効ニ關スル推問……………

鶴 丈一郎

民法 婚姻ニ關スル推問……………

鶴 丈一郎

民法 備船契約論 其二……………

加藤 正治

民法 海法ノ沿革ニ付テノ講演……………

松波仁一郎

刑法 被告人ノ死亡ト附帶私訴トノ關係、私訴ノミノ控訴ノ場合、  
裁判所ニ於ケル用語及ヒ一事不再理ノ原則等ニ關スル推問……………

鶴見 守義

羅馬法(自一六五頁至一七六頁)……………

田 中 遜

民法 代理ノ性質及ヒ代理權ノ授與ニ關スル推問竝ニ講演……………

梅 謙次郎

民法 隱居ノ無効ニ關スル推問……………

鶴 丈一郎

民法 婚姻ニ關スル推問……………

鶴 丈一郎

民法 備船契約論 其二……………

加藤 正治

民法 海法ノ沿革ニ付テノ講演……………

松波仁一郎

刑法 被告人ノ死亡ト附帶私訴トノ關係、私訴ノミノ控訴ノ場合、  
裁判所ニ於ケル用語及ヒ一事不再理ノ原則等ニ關スル推問……………

鶴見 守義

生徒 單ニ或名前ヲ指シタノデハ成立タス……委任若クハ普通ノ原因ニ因リテ、  
講師 歸リ代理ト云フモノハ或權限ヲ有スル者ニ其權限内ニ於テ他人ノ名ヲ  
以テ或法律行為ヲ爲シタトキニ其法律行為ガ直接ニ本人ニ對シテ效力ヲ生  
ズルノヲ謂フノデアアル、其代理原因ヲモウ一遍

生徒 委任ニ因リマス場合、法律ニ依リマス場合、此ニツデ……併シ委任ノ場合ニ  
ハ明カナ委任ノ場合ト默諾トニツアリマス

講師 裁判所デ或代理人ヲ選ブ、其レハ何デス  
生徒 其レハ法律ノ規定ニ依リテ裁判所ガ選ブ……  
講師 其レハ法律上ノ代理人デスカ

生徒 ナウデス  
講師 株式會社ノ株主總會デ取締役ヲ選任シタ、是ハ何デス  
生徒 其レハ法定代理デアリマス  
講師 ダケレドモ株主總會デ選シタ……

生徒 併シ會社ヲ代理スルノハ法定代理デ委任ニ因リタモノデナイ、併シ會社ノ

場合ニ於キマシテモ其定款ノ條項ニ依リテ或者ガ取締役ニ爲ルト云フコトヲ  
條件トシテ道入リマシタトキハ多少違フダラウト思ヒマス、併シ單純ナ場合  
ニ於キマシテハ……

講師 株式會社デソナコトガアリマスカ  
生徒 違ヒマシタ

講師 組合ノ業務ヲ擔任スル者ハ何デス  
生徒 委任ニ因ル者デス

講師 併シ民法ニハ委任ニ關スル規定ヲ準用ストアル、ナウスルト委任デナイ  
若シ委任ナラバ第一規定モイラス管デアル……

生徒 ソレハ組合ノ性質上組合ヲ代表スルモノデアリマスカラ準用スト云フ  
コトヲ書イタモノデアラウト思ヒマス

講師 (他ノ生徒ニ對シテ) アナタハドウ考ヘル、組合ノ業務執行者ハ委任ニ因ル代  
理者デスカ、ナウデナイデスカ  
生徒 委任ノ外ノ一種ノ契約デス

講師 代理關係ガ成立ツテ居ルマスカ

生徒 代理關係ハ委任ノ規定ヲ準用シテ矢張代理ガアリマス

講師 民法ニハサウ云フ風ニ書イテナイ、倘條ガ舉テ準用シテアル、其箇條ハ

委任契約ノ規定デアアル代理ノ規定デムナイ

生徒 委任ニ因テ代理ガ生ズルマスカラ………

講師 所ガ委任ノ或規定ガ準用シテアル、別ニ代理ノ規定ガ準用シテハナイ、ソ

レデモ代理關係ガ成立チマスカ、斯カ敷ク準用スルハ、委任ノ規定ガ準用シテ

生徒 間接ニ成立チマス

講師 六百七十一條ニ組合ノ業務ヲ執行スル組合員ニハ第六百四十四條乃至

第六百五十條ノ規定ヲ準用スル、此六百四十四條乃至第六百五十條ハ委

任ノ效力ヲ定メタモノデアラフテ代理ノ規定デハナイ、ソレデモ代理ガ成立ツテ

居ルマスカ

生徒 矢張代理デアラフマセズ、………

講師 業務執行員ガ或法律行為ヲ爲シタトキ、ニハ其效力ハドウナルカ

生徒 其委任ニ關スル所ノ條文ヲ準用シマスノデ、其準用ノ結果業務執行員ニ

對シテ生ジヤシタコトガ他ノ組合員ニ對シテ效力ヲ生ズルノデアリマズ

講師 其レハ委任ノ規定ニハナイ、代理ノ規定デアアル、委任ノ規定ハ寧ロ其レニ

反對ノコトガアル、受任者ガ委任者ノ爲メニ得タル權利ハ之ヲ委任者ニ移轉

シナケレバナラヌトカ、或ハ受任者ガ委任者ノ爲メニ負ウキル債務ハ委任者

ノ方デ之ヲ負擔シナケレバナラヌトカ云フコトガアル、直接ニ效力ヲ生ズル

ト云フコトニ寧ロ反對シテトガ書イテアル

生徒 委任ノ方ヲ能ク調ベテ居リマセ

講師 (他ノ生徒ニ對シテ) アナタノ御考デハ組合ノ場合ニ代理ガアリマスカ

生徒 矢張アリマスダラウト思ヒマス、或組合ノ目的ノ事務上ニ付テ一人ノ組

合員ノ爲シタルコトハ矢張他ノ組合員ノ爲シタル同一ニナルダラウト思ヒ

マス、………

講師 其レハ法定代理デスカ、………

生徒 其レハ委任代理ト見テ宜カク、ト思ヒマス、或一ツノ目的ノ爲メニ組合

ト云フモノヲ組織致シマス其組合ノ目的タル所ノ事業ヲスルニ付テハ互ニ代理ヲシテ居ルモノデアルト云フコトガ云ヘルダラウト思ヒマス

講師 代理ノ方ハ云ヘルカ知レヌガ併シ委任ト云ヘルデスカ

生徒 其事務ニ付テハ他ノ組合員ニ委任シテ居ルト云フコトガ云ヘルト思ヒマス

講師 ナゼデセウカ六百七十一條ヲ委任ノ規定ガ準用シテアルソレナラバ準

用ニハ及バズ適用デアラウ

生徒 其點ハ能ク説明ガ出来ヤセス

講師 其レハ斯ウ云フ譯デス組合員ハ組合ノ業務ニ付テハ自己モ利害ヲ持ツテ居ル自己ノ利害ノ上ニ於テハ代理若クハ委任ト云フヤウナ問題ハ起ラズ唯他人即チ他ノ組合員ニ對シテハ私ノ意見デハ委任ガアルト思フ併ナガラ組合ノ利益ト云フモノハサウ云フ風ニ甲ノ利益乙ノ利益ト分ケル譯ニイカナ

イ組合ノ利益ヲ一ツト視テバナラス其一ツノ利益カラ觀ルト一部分ハ自己ノ爲メデアラテ他ノ部分ハ他ノ爲メデアアルサウスルト純然タル自己ノ爲メノミデナイ他ノ爲メモアル其レヲ一緒ニシテ業務ヲ執行スルカラ若シ六百七十一條ノ規定ガナカラバナラバ自己ノ爲メニスル場合ニハ委任關係ノ適用ガナイ他人ノ爲メニスル場合ニハ委任關係ガアルト斯ウ云ハチバナラス其結果トシテ同ジ組合ノ業務デアリナガラ其レヲ分ケテバナラス一部分ハ自己ノ爲メデアアルカラ其レニ付テハ一切委任ニ關スル規定ヲ適用スルコトハ出來ナイ他ノ利害ニ付テハ適用セテバナラスト云フコトニ爲ルソレハ困ル何トナレバ組合ノ繼續シテ居ル間ハ組合ノ利益ハ法人デハナイケレドモ矢張之ヲ獨立ノモノトシナケレバナラズサウシテ見ルト一部分ハ自己ノ爲メニ爲シテ居ルニ拘ハラス例ヘバ其組合員ガ立替ヘタモノハ一旦組合ノ方カラ拂ハチバナラス若シ其者ガ組合ニ拂フベキモノガアルナラバ自己ノ部分ダケ差引イラト云フ譯ニハイカス全部組合デ拂ハチバナラス其規定ガ委任ノミデハ足ラナイ即チ適用ガ出來ナイ準用ト云フコトニ爲ル併ナガラ他人ノ爲メニ爲スト云フコトハ委任デアル隨テ委任モ因ル代理ノ規定ガ敬ル我民法デハ代理ト云フモノハ法定代理ノ外ハ委任代理シカナイソレデ今ノ場

民法 代理ノ性質及モ代權ノ種類ニ關スル推定ニ關スル條

合以委任ニ因ル代理ト云フ事トモ爲ラザルヲ以テ之ヲトシテトモ合人  
 生徒ヲテコトト同トシテ之ガ只今ノ場合ニ組合ノ契約ヲ以テ選シテ者モ組合契約  
 後ニ選ンダ者モ其性質ハ變リ得ルモ其力限出イ云々トモイハレバ則チ之ガ合人  
 講師 其レハ私ハ同ジコトデアルト思フ組合員以外ノ者ガ業務ヲ執行スル場  
 合ニハ是ハ純然タル委任デアラハ民法并モ其場合ニハ特ニ規定ヲ置クテオカ  
 第六百七十一條ハ組合ノ業務ヲ執行スル組合員ニ委任ニ關スル規定ヲ專用  
 ストアル故ニ組合員デナイ者ガ業務ヲ執行スル場合ニハ純然タル委任デア  
 ルガ組合員ガ業務ヲ執行スル場合ニハ組合契約ヲ以テ定メタ場合デモ後日  
 定メタ場合デモ同ジデアアル只今私ハ代理ノ原因ハ法定代理其法定代理ト云  
 フコトハ法律ガ直接ニ或人ニ代理權ヲ與ヘ居ル場合例ハ親權者ニ子  
 代表權ヲ與ヘ居ル場合ノ如キモノソレカラ法律ノ規定ニ依テ裁判所ガ選  
 シ場合ソレカラ法律ノ規定ニ依テ裁判所以外ノ或機關ガ選シ場合株主總會  
 等取締役ヲ選シ場合親族會等後見人ヲ選シ場合等云フヲ以テ法定代理其外  
 ニハ委任ト代理シカサナト私ハ云フ事ハ併シ是レ實ニ反對説ガアリテ之ガ他ノ原

因デ代理權ハ生ズルト斯ク云フコトヲ言フ者ガアル他ノ原因ト云フノハ一  
 種トシテ組合契約カラ生ズルコト或ハ雇傭契約カラ生ズルトカ即チ委任ノ外  
 其組合契約雇傭契約ナシカラ代理權ガ生ズルト云フ説ト契約以外ニ於テ本  
 個人ノ單獨行爲カラ生ズルト云フ説ガアル先ツアナタニ伺フノハ其法定代理  
 ト委任代理トノ以テ於テ代理權發生ノ原因アリト認メルカドウカト云フ  
 コトデアラハ其レハハコトナシ

生徒 必ズ私ハ認メマセムコト云フ事モ其レハ實ニ學理モ限カサズトイフ可ク云フモ  
 講師 コトウ云フ事ト組合ニ付テハ合私ガ意見ヲ述ベタガ雇傭ノ場合ニ於テ説  
 明スル即チ雇人ガ雇主ヲ代表スルコトガ明カナルコトヲ説明スルモ限カサ  
 生徒 其レハ委任ト方テ説明シテ行キ得ルコト云フ事モ其レハ實ニ學理モ限カサ  
 講師 其場合ニハ雇傭ト委任ト同ジコトナシカ  
 生徒 必ズシモナウデアリマセム雇傭デアラモ雇傭關係カラ委任ト云フ關係  
 ヲ惹起シ場合方テ御マセム雇傭必ズレモ委任ト云フ關係ヲ惹起スルコト云フ事モ  
 其レハ實ニ學理モ限カサズ惟雇人ガ機械的ニ主人ノ爲メ行動スルコト云フ事モナ場合ニハ

委任ト云フ關係ハ起ラナイ、委任ト云フソハ法律行為ヲ爲ス場合ニ代理人ガ主人ノ爲メニ法律行為ヲ爲スト云フコトヲ場合ニナル時委任ト云フ關係ガ成立セマス

講師 私ガ車夫ヲ買物ニ遣ル、其場合ハドウデス

生徒 此場合ニハ代理ガアリマス、即チ委任ト云フ關係ガ生ズル

講師 ソレデハ私ガ車夫ヲ使ニ遣ル、私ガ或所ニ金ガ貸シテアルソコデ斯ウ云

フコトヲ言フヤル、豫テ御貸申シテアル金ハ先月中ニ御返ニナル管デア、

ガ今ニ御返ガナイハドウ云フ譯デア、速ニ御返ヲ願ヒタイト斯ウ云フコ

トヲ云フヤル、其レハドウデア

生徒 此場合ニハ委任ト云フ關係ハ生ジナイ、因マテ

講師 ドウ違フ

生徒 ソレハ法律行為デナイ、

講師 催告ト云フモノハ法律行為デナイノデスカ

生徒 少シ分リ兼テマス

講師 多少六ヶ敷イ問題カモ知レヌガ、詰リ第一ノ場合ニ於テハ委任ガアリ代

理ガアルト思フ、第二ニ付テハモ一少シ論究シナイト必ズシモ代理アリヤ否

ヤト云フコトハ分ラヌ、併シ先ヅ代理ガナイト云フ場合ガ多カラウト思フ、此

他ノ場合例ヘバ唯紙ヲ買テ來イト云フヤウナ場合ニハ買賣契約ノ條件ヲ定

メタノデナイ、相手方ヲ定メテ何ノ某ニ斯ウ云フコトヲ言ヘト云フノデナイ、

詰リ車夫ガ自己ノ意思ヲ以テ買賣契約ヲ爲ス、私ノ名ニ於テヤレバ代理デス

ガ、兎ニ角私ノ名ニ於テシテ所ガ車夫ノ自己ノ意思デヤル、是ハ少クモ委任デ

アル、所ガ第二ノ場合ハチウデナイ、車夫ノ意思ハ道入ラナイ私ノ意思ヲ取次

タノデア、ル、催告ハ車夫ガスルノデナイ、私ガスルノデア、ル、即チ先月中ニアナ

タハ私ニ返スベキ金ガアル、ドウスルカ早ク返セト云フ手紙ヲ遣ルノト同ジ

デア、ル、此場合ニハ車夫ガ私ノ意思ヲ代理スルノデナク、即チ此場合ニハ代理

ハナク、雇傭契約ノミデア、ル、第一ノ場合ニハ車夫トシテ私ノ命令ヲ聽イテ働

クノハ雇傭契約デア、ル、今ノ紙ヲ買フ一事ニ付テハ委任ヲ受ケテ居ル、其レヲ

履行シナクシテバナラヌノハ雇傭契約ノ結果デア、ル、單ニ紙ヲ買ヘト云フ一事





生徒 生ジナイト思ヒマス

講師 サウスルト第三者ニ言フタノデハイカニ云フ理由デハ解ケズ先ヅ第一ノ理由ハ理論上ニ於テ私ノ信ズル所ニ新民法ノ採用シタ意見ハ或人ガ自己ノ意思ダケニ因ラ直チニ東縛ヲ受ケルト云フコトハ例外デアル單獨行為ガ效力ヲ生ズル場合ハ幾ラモアル併ナガラ多クノ場合ハ自己ヲ東縛ハセス即チ最モ著シイモノハ遺言デスガ遺言ハ自己ノ死スルマデハ遺言ハ取消セルガ死ンデカラ後ニハ自己ヲ東縛スルノデナクシテ人ヲ東縛スルソレモ本統ニハ東縛サレスナゼナレバ相續人ノ中デ拋棄ノ出來ルモノナラ其遺言ガイヤト思フナラ相續ヲ拋棄スレバ遺言ヲ履行シナイデ宜イ又限定承認ガアル其レハ相續ニ依ラテ得タル財産ダケ出スソレヨリ上ハ遺言ヲ執行スル義務ハナイ要スルニ遺言ト云フモノハ單獨行為デアル併ナガラ其レハ何人モ東縛シナイ單獨行為デアルト云フヲ宜イ其外ニ催告トカ通知トカ云フ單獨行為ガアルガ其レハ行為自身ガ行為者ヲ東縛ハセス相手方ヲ東縛スルコトハアル併ナガラ其行為ノミデ東縛スルノデナクテ或ハ契約ガアル或ハ法律ガアル

義務ヲ負ハシタ居ル場合ソレデアルカラ要スルニ單獨行為ガ效力ヲ生ズル場合ハソレノミデ以テ當事者ヲ東縛スル場合デハナイ強ヒテ單獨行為ガ當事者ヲ東縛スル場合ヲ尋チタナラバ申込ガ或程度マデ東縛スルコトガアル其レハ何デアルカト云ヘバ期間ヲ定メテ申込ヲ爲シタ場合ニハ其期間内ハ其申込ヲ取消スコトガ出來ナイサウ云フヤウナ明文ガアル所ガ代理ニ付テハチウ云フ明カナ法文ハナイ故ニ詰リ民法ノ探ラテ主義カラ云フト單獨行為ハ當事者ヲ東縛セスト云フノガ本則デアアル故ニ代理權ノ授與ニ於テモ唯本人ガ意思ヲ表示シタト云フダケデハ獨東スル力ヲ生ゼスト云フコトニ爲ラウト思フソレカラ第二ノ理由ハ

生徒 前ニ復代理人ノ規定デ委任ノ場合ニ復代理ヲ設ケル場合ト委任ニ非ザル法定代理ノ場合トハアルガ單獨行為ノ場合ニ復代理ヲ設ケル規定ハナイ若シ單獨行為ガ代理權ヲ發生スルナラバ本人ノ意思ニ因ラテ消滅スル場合モ認メチバナラス然ルニ消滅原因ノ爲メ本人ノ意思ニ因ラテ消滅スル場合ガ別舉シラナイ其前後ノ場合ニ於テモ單獨行為ニ關スル規定ハナイ

講師 ヲシレハ宜ク外區ニテ對テ之ヲ行使シ得ルハ其ノ事實ハ之トシテ  
 生徒 ヲシレカラ反對者ヲ論シ獨逸民法ヲ規定ス依テ云ハク云フコトヲアル所  
 其レ以テ知リ得ルモ其規定ト此百九條ノ規定ト其旨方別違ハズアルト云フ  
 コトヲナリテ其合イハテハ其旨方別違ハズアルト云フコトヲ得ル  
 講師 ヲシレハ獨逸クハ本人ノ意思表示ニ依テ代理權ヲ授與スルコトヲ得ル  
 云フコトヲガアル其レハ宜ク外區ニテハ理由ハアリマセカソレヨリモ  
 強ク證據モアルハ同位ノ證據ガモ少シアルハ生テハ其旨方別違ハズアルト云フ  
 生徒 記憶致シ得ルモ云フコトハ本明マテハ其旨方別違ハズアルト云フ  
 講師 今ノ問題ニ付テ山崎君ノ生徒ヲ言フカハ證據アルコトヲ得ルハ其旨方別違ハズアルト云フ  
 法ハ獨逸民法ノ主義即チ單獨行為ニ因テ代理權ヲ授與スルコトヲ得ルハ其旨方別違ハズアルト云フ  
 コトヲ取テ之ヲ理由トシテ其旨方別違ハズアルト云フコトヲ得ルハ其旨方別違ハズアルト云フ  
 生徒 他ノコトヲ言フコトハ其旨方別違ハズアルト云フコトヲ得ルハ其旨方別違ハズアルト云フ  
 云フコトヲ言フコトハ其旨方別違ハズアルト云フコトヲ得ルハ其旨方別違ハズアルト云フ  
 講師 一體代理權ト云フコトハ其旨方別違ハズアルト云フコトヲ得ルハ其旨方別違ハズアルト云フ

カ、義務ノ履行ニ付テ存スルモノハ其旨方別違ハズアルト云フコトヲ得ルハ其旨方別違ハズアルト云フ  
 生徒 其レハ兩ナガラアラス其旨方別違ハズアルト云フコトヲ得ルハ其旨方別違ハズアルト云フ  
 講師 ナウスルト責ニ任スト云フコトハ其旨方別違ハズアルト云フコトヲ得ルハ其旨方別違ハズアルト云フ  
 雙方ヲ合ムノデスカ其旨方別違ハズアルト云フコトヲ得ルハ其旨方別違ハズアルト云フ  
 生徒 義務ガアルト云フコトノミデアラス其旨方別違ハズアルト云フコトヲ得ルハ其旨方別違ハズアルト云フ  
 講師 ナウスルト權利ノ主張ニ付テ百九條ヲ適用スル譯ニハイキマセカ其旨方別違ハズアルト云フ  
 生徒 宜クイカナイダネウト思フニ其旨方別違ハズアルト云フコトヲ得ルハ其旨方別違ハズアルト云フ  
 講師 代理權ノ授與ト云フモノガアルカスレニ因テ權利ヲ得ルコトモカ  
 ケレバナラス權利ヲ行フ爲メニ代理ヲ頼ムコトガ多ク此場合ニハ責ニ任ス  
 トアルカス義務ノ方カラ規定シナクハバナラス九十九條ニハ直接ニ本人ニ對シテ其旨方別違ハズアルト云フ  
 ズ權利ノ方ヲ規定シナクハバナラス九十九條ニハ直接ニ本人ニ對シテ其旨方別違ハズアルト云フ  
 カヲ生ストアル權利モ生ズル義務モ生ズル其旨方別違ハズアルト云フコトヲ得ルハ其旨方別違ハズアルト云フ  
 ノコデ私ノ考ニハ百九條ノ第三者ニ對シテ他人ニ代理權ヲ與ヘタト云フコト  
 トヲ表示シタ者ハ實際與ヘテ居ラス其旨方別違ハズアルト云フコトヲ得ルハ其旨方別違ハズアルト云フ

際ハ與ヘテ居ラテタテモ其代理權ノ範圍内ニ於テ其他人ハ第三者トシテ問  
 爲シタ行爲ニ付テ義務ヲ負フルヲ以テ第三者ニ對シテ所謂代理ノアルヤ否  
 ニ他人ノ爲シタル行爲ニ付テ義務ヲ負フルヲ以テ第三者トシテ規定シ  
 タンレド代理權ヲ授與スルナラバ義務ヲ生ジタテ權利ハ生ズルコトモ  
 アリ得ル此場合ニモ責任任ズト云フニハナク其レハ百九條ニ據テ主張ハ  
 出來ナイ私ガ甲ニ代理權ヲ與フルト云フニハ言テケレドモ實際本人  
 ニ向テ言テ居ラナイトキハ權利ヲ主張スルコトハ出來ナイ併ナク向テカ  
 トラ義務ノ履行ヲ求メタトキニハ拒ムコトハ出來ナイ其レハ丁度百十條ニ於  
 テ代理人カ其權限外ノ行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者カ其權限アリト信  
 スヘキ正當ノ理由ヲ有セシトキハ前條ノ規定ヲ準用スルトアル是同ジコト  
 デアル此場合ニハ權限外ノ行爲ヲ爲シタルノデスカラ無論本人ガ其レニ依テ  
 權利ヲ得ルト云フコトハ出來ナイ併ナガラ第三者ガ善意ヲ以テ其善意ニ過  
 失ガナイ權限アリト信ズル正當ノ理由ガアルザクスルト其本人ハ責任ヲ負  
 ハナクバナラヌト云フコトニ爲テ居ル其レト同ジコトニ規定ガ出來テ居ルナ

ウスルト權利ヲ主張スルコトハ出來ナイコトヲカテ權利ヲ主張スルトキニ  
 ハ是ハ代理權ガナカクテ云ハテ仕方ナク併シ向テカテ御前ガ代理權  
 ヲ與ヘタト云フ人ガ爲シタル行爲デアアルカラ實際ハ與ヘテ居ナクモ其義務  
 ハ履行シナケレバナラヌト云フコトガ出來ル責任ヲ負フト云フコトハ勿論言  
 フマデモナク雙務契約ナドニナルト義務ト權利ト生ズルカラ義務ノ履行ヲ  
 求メル以上ハ相手方ゴチラノ權利ノ實行ヲ甘テ受ケテチナリマセヌガ  
 若シテ義務ダケ生ズル場合デアアルトゴチラハ權利ハナイニ拘テ向テカテ  
 義務ノ履行ヲ求ムル權利ダケデアレバ勿論義務ノ履行場合デモモテ向テカテ  
 權利ヲ主張スルコトハ出來ナイシテ見ルト此規定ハ山崎君ノ言ハレタヤウ  
 ニ唯第三者ヲ保護スル爲メ本人ニ義務ヲ負ハシタダケデアラテ代理權ヲ認  
 メタノデハナイト云フコトニ爲ルナセ第三者保護ノ規定デアアルコト云フト  
 第百十條ノ規定ト同ジヤウニ第三者ハ或人ニ代理權ヲ與ヘタト云フト  
 聞ケバ其レヲ信ズルノ外ナイ其レヲ信ジテ或行爲ヲ爲シタカラ其レ少ク  
 モ自己ノ利益ニ於テ本人ニ對シテ效力ガナイト云フコトニ爲ルモ他人ノ言

民法 代理ノ性質及代理權ノ授與ニ關スル推定ニ就テ

ヲ信シテ取引ヲスルコトハ出來ヌ、ソレガカラ第三者ヲ保護シテ此場合ニハ實際代理權ハナインデアアルケレドモ恰モ代理權ノアルカク如ク本人ヲシテ義務ヲ履行セシムルコト云フコトヲ認メタ是ハ獨逸ノ單獨行為ニ付テ代理權ヲ授與スルコトヲ得ルト云フコトトハ性質が違フ尙ホ附加ヘテ言フト若シ是ガ代理權授與ノ規定ナラ獨逸民法ノヤウニ初ニ規定シテナケレバナラズ、代理ニ關スル規定ハ九十九條カラ始マルソレデ中ニハ例ヘバ權限ニ關スル規定ガアル或ハ復代理ニ關スル規定ガアル其後ニ此規定ガアル其辭ニ今申シテ代理人ガ權限外ノ行為ヲ爲シタ場合ガ規定シテアル私ノ說ノ如ク解スルト場所ガ尙ニ適當デアアル、代理人ガ權限外ノ行為ヲ爲スト同シヤウニ實際代理權ハナイケレドモ第三者ハ代理權アリト信ズル理由ガアル、ソレデ本人ニ責任ヲ負ハスト云フコトニ爲テ居ルガ若シ本條ニ於テ代理權授與ノ方法ヲ規定シタモノトスルト順序トシテ此ノ如キコトハアリ得ヌカラ獨逸ト違フ、富井君ハ單獨行為ニ因ル代理權授與ト云フコトヲ唱ヘタケレドモ近來ハ餘リ之ヲ主張セヌヤウデアアル、唯立法論トシテ其方ガ宜イト云フケレドモ我

民法ノ解釋トシテハサウ云フコトハイカスト云フコト、近頃ハ言フヤウデアアル、數年前ニ大學ヲ討論會ヲシタ時キニ私ガ今唱ヘル意見ノ主論者ト爲リ、富井君ハ反對ノ主論者デアタガ其時ノ討論ガ解釋論トシテハイカスト云フコトヲ覺テヤウデ、近頃ハサウ云フ說ヲ唱ヘヌヤウデアアル以上ヲ以テ代理權授與ノ事ヲ說キ終リマシタ、ソレカラ代理ト云フモノハ如何ナルモノト云フコトヲ說キ了リマシタ

隱居ノ無効ニ關スル推問

民法ノ解釋トシテハサウ云フコトハイカスト云フコト、近頃ハ言フヤウデアアル、數年前ニ大學ヲ討論會ヲシタ時キニ私ガ今唱ヘル意見ノ主論者ト爲リ、富井君ハ反對ノ主論者デアタガ其時ノ討論ガ解釋論トシテハイカスト云フコトヲ覺テヤウデ、近頃ハサウ云フ說ヲ唱ヘヌヤウデアアル以上ヲ以テ代理權授與ノ事ヲ說キ終リマシタ、ソレカラ代理ト云フモノハ如何ナルモノト云フコトヲ說キ了リマシタ

ハハ 法文ニ得ヌ又ハ「妻」等ノ語アルト由リ其隱居ノ成立條件ナルコトヲ知ルニ足レバナリ

講師 第七百五十八條ヲ見ヨ

生徒 前言ハ誤レリ而シテ婚姻ニ付テハ無効ノ規定アルモ隱居ニ付テハ取消ノ規定アルニ止マルヲ以テ觀レハ結局隱居ノ無効ト爲ル場合ナキナリ

講師 他ニ説ナキカ

生徒(他ノ) 意思ノ欠缺及ヒ届出ナキ場合ナリ其理由ハ隱居ハ隱居ヲ爲ス自由意思ノ表示ヲ要シ又隱居ハ届出ヲ要スルニ由ル

講師 然リ向ホ其他ニ無効ノ場合ナキカ

生徒 第七百五十四條第二項ノ場合ニ於テ若シ婚姻カ無効ナルトキハ隱居モ亦當然無効ト爲ルヘシト信ス

講師 然ラス第七百五十四條第二項ノ場合ハ婚姻成立ノ日ニ隱居ヲ爲シタルモノト看做サルルノミ故ニ若シ婚姻カ無効ナルトキハ固ヨリ隱居ヲ爲シタルモノト看做サルルコトナシ

生徒 相續人曠缺ノ場合ハ隱居ハ無効ト爲ルヘシト思考ス何トナレハ隱居ハ元來相續人アルヲ豫想シテ爲スモノナルヘケレバナリ

講師 然リ元來法律上隱居ノ制度ヲ存スルハ一ハ舊慣ヲ重スルトハ老衰病弱ナル戸主ノ如キ家政ヲ執ルニ堪ヘザル者ニ代フルニ強壯有爲ノ戸主ヲ以テスルハ一家ヲ維持スル爲メ必要ナル場合アルコトヲ認メタルニ因ルモノナルヘケレハ隱居ノ結果其家ヲ廢滅ニ歸セシムルカ如キハ法律ノ趣旨ニ反スルノミナラス假ニ右ノ場合ニ於ケル隱居ヲ有效ナリトセバ隱居者ハ入ル

ヘキノ家ナキヲ以テ更ニ一家ヲ創立セザルヲ得サルヘク此ノ如キハ全無意味ノ事ニ歸スルヲ以テ家督相續人トモトキハ隱居ハ無効ナリト解セザルヲ得ス而シテ第七百五十四條第二項ノ場合ニ於テハ法律ハ婚姻ヲ無効ナラシメザラシムルカ爲メ隱居ノ法式ヲ廢止セザル者ヲ以テ隱居ヲ爲シタルモノト看做シタル然レドモ若シ此場合ニ於テ全無相續人ナキトキハ如何上述ノ如ク相續人ナキ場合ニ於テハ絕對ニ隱居ヲ爲スヲ得ズ繼承之ヲ爲スモ無効ナリトスル以上ハ右持條ニ依リ隱居ヲ爲シタルモノト看做スルニテハナラズ惟

此場合ハ第七百六十二條及七百六十三條ニ所謂廢家ニ屬スベキ別廢家トシテ第七百六十二條規定ニ依リ主自其家別廢シテ他家ニ入ルル事ヲ許ス故ニ今戶主ガ相續人ガキモ拘限ラズ婚姻ニ因リテ他家ニ入ルル事モ他家ヲ廢シテ他家ニ入ルル外ナラス又戶主ガ縁組ニ因リテ他家ニ入ルルトキハ其縁組之ヲ無効トスベキ規定ナキヲ以テ有效ナルニ勿論ナリ然レモ此場合ニ於テハ第七百五十四條第二項ノ如キ規定ナキヲ以テ隱居ト看做スヲ得ナレハ若シ相續人ナキトキハ前段ト同シク廢家ト謂フベキカ如シ或ハ右等ノ場合ハ絶家ナリトノ説ナキニ非サルヘシト雖モ絶家トハ戶主ノ國籍喪失又ハ死亡等ニ因リ其家ニ戶主ナキニ至リタル場合ニシテ戶主カ自己ノ意思ニ因リテ其家ヲ廢シタル場合ハ之ヲ包含セザルモノト信ス又右ノ場合ニ於テ家族アラハ其家族ハ之ヲ如何スベキカ第七百六十三條ニ依リテ「戶主カ適法ニ廢家シテ他家ニ入リタルトキハ其家族モ亦其家ニ入ル」トアリ「適法ニ云云」トアルニ山リテ觀レハ前述ノ場合ハ本條ニ適合セルカ如シト雖モ既ニ法律上戶主カ廢家シテ他家ニ入リタルモノト認ムルヲ得ヘシトモハ

同條ニ依ルヘキハ當然ナルヘシ

生徒 第七百六十三條ノ場合ハ第七百三十八條ハ適用ナキモノナリヤ即チ當

然入家スベキモノナリヤ然レモ其家ニ入ルル事ハ其家ニ入ルル事ニ依リテ

講師 然リテ其家ニ入ルル事ハ其家ニ入ルル事ニ依リテ其家ニ入ルル事ニ依

講師 第七百六十二條第二項ノ手續ニ依ラスシテ爲シタル廢家ハ有效ナルカ

生徒 無効ナルト信スニ其ノ主自其家ニ入ルル事ニ依リテ其家ニ入ルル事ニ依

講師 前述ノ如ク婚姻及ヒ縁組ノ場合ニ婚姻及ヒ縁組其モノヲ有效ト認メタ

ル結果トシテ廢家ヲ認ムヘキ場合ハ之ヲ有效ナリトセザルヘカラス其他ノ

場合ハ答辯ノ通ナルヘシ

講師 第七百六十一條ノ規定ハ如何ナル必要アリヤ

生徒 辨濟其他ノ關係ニ絶對對抗スルヲ許ササル爲メナリ

講師 債務者ニ付テハ本條規定ノ必要ヲ見ルモ債權者ニ付テハ第九百八十九

條ニ於テハ通知ノ有無ニ關セズ前戶主及ヒ相續人ニ對シテ請求シ得ルヲ以テ

本條規定ノ趣旨ヲ解シ難キカ如シ或ハ冗文ナランカ債務者ニ付テハ第四百

六十七條ト同趣旨ナリ。雖チモ此ノ條ハ正式文書ニテハ遺囑ニ付テハ第四百  
 六十八條ノ條ハ既ニ條ニ關テハ條目主文ニテモ條目人ニ關テ條目ノ條目ハ既ニ  
 遺囑ノ遺囑ニ付テハ本條ノ條目ハ既ニ條目ノ條目ニ關テハ條目ノ條目ハ既ニ  
 遺囑ノ遺囑ニ付テハ本條ノ條目ハ既ニ條目ノ條目ニ關テハ條目ノ條目ハ既ニ  
 遺囑ノ遺囑ニ付テハ本條ノ條目ハ既ニ條目ノ條目ニ關テハ條目ノ條目ハ既ニ

法律學士 鶴 丈 一 郎

婚姻トハ何ゾヤ  
 生徒 一男一女ノ承諾ニ基テ生存間ノ結合ニシテ法定條件ニ依ル形式ヲ具備  
 則チタリモ右ノ外ニ遺囑ニ付テハ生存間ノ結合ニシテ法定條件ニ依ル形式ヲ具備  
 講師 然レ法律ヲ以テ公認シタル男女ノ承諾ニ由リ共同生活ヲ目的トスル生  
 存間ノ結合關係ハ即チ婚姻ナリトス然ラハ婚姻ハ契約ナリヤ  
 生徒 婚姻ハ廣義ニ所謂契約ノ一ナリモ民法ノ用語價契約トハ聊カ異ナル所  
 アリト思フ

講師 民法上ノ契約トハ如何

生徒 財產權上ノ效果ヲ發生セシムルヲ目的トスル當事者ノ意思ヲ合致セシ  
 テ債權關係ノ發生消滅ニ關スルモノトシテ民法上所謂契約ナリ然ルニ婚姻  
 係ハ身分上ノ關係ヲ生セシムルモノニシテ婚姻ヨリ生スル財產關係ハ婚姻直  
 接ノ目的ニ非ス故ニ婚姻ハ民法上ノ契約ニ非ス

講師 婚姻ノ豫約ハ有效ナリヤ

生徒 英國法ノ如キハ之ヲ有效トセルカ如キモ我邦ニ於テハ無効ナリ  
 講師 其根據如何

生徒 若シ婚姻ノ豫約ヲ有效トモハ甚タ不都合ヲ生ス即チ任意ノ合致アリテ  
 始メテ婚姻ノ目的ヲ達スヘキモノナルニ既ニ愛情ノ喪失ニ至ル男女間ノ結  
 合ハ却テ不和ヲ醸シ秩序ヲ害スレハナリ  
 講師 其レハ立法上ノ理由ナレカ  
 生徒 然リ



生徒 本問ハ積弊消極統レニ決スルトスルモ法文上ノ根據ナシ故ニ婚姻ノ性  
實質上ヨリ決セサルヘカラス

講師 本問ヲ解決スルニハ婚姻ノ性質ノミヲ標的トスルヲ得サルヘシ何トナ  
レハ各國ノ法律ヲ通シテ婚姻ノ意義性質ハ大抵同一ナルニ拘ハラス其豫約  
ニ付テハ其效力ヲ認メ或ハ之ヲ認メサルヲ以テ亦リ故ニ婚姻豫約ノ無効者  
ニハ理由ハ尙ホ之ヲ法文ニ覺メサルヘカラス其旨ハ此ニ在リ合注ニ見ル

生徒 婚姻ハ届出ニ因リテ其效力ヲ生ス然ルニ豫約ハ其届出ナキカ故ニ無効  
タルナリ亦豫約ナルモノハ賣買其他ノ契約ニ於ケル豫約ノ如ク之ヲ認ムル  
ニ明文ヲ待チテ始メテ有效ナルモノナリ然ルニ婚姻ノ豫約ナルモノハ法文上  
之ヲ認ムルモノナシ

講師 豫約ト婚姻トハ別物ナリ而シテ豫約ニ付テハ法律上届出ヲ要スルノ規  
定ナキヲ以テ届出ナシトシテ理由ヲ以テ之ヲ無効ト論スルヲ得ス又契約ハ自  
由ナルヲ以テ原則トスルカ故ニ特ニ豫約ヲ有效ト認ムル法文ヲ要スルコト  
ニナルカレシ

生徒 第七百七十八條第一號ニ婚姻ヲ爲ス意思ナキトキハ婚姻ハ無効ナリト

セハ即チ當事者雙方婚姻ノ當時婚姻ヲ爲スノ意思アルコトヲ要ス蓋シ豫約  
實行ノ意思ナキハ即チ婚姻ノ意思ナキナリ故ニ豫約ヲ有效ト認ムルコト能  
ハス

講師 他ニ說ナキカ  
生徒(他ノ) 第七百七十八條ハ婚姻ヲ無効トスル積極的ノ意義ヲ定メタルモノ  
ニ非ス唯消極的ニ無効ノ場合ヲ限定スルノミ故ニ此條文ヨリ婚姻豫約ノ無  
効ヲ決セントスルハ誤ナルヘシ何トナレハ婚姻ノ成立ニ婚姻ノ意思ヲ要ス  
ト云フハ恰モ賣買ノ成立ニ賣買ノ意思ヲ要スト云フニ異ナラズ然リ而シテ

賣買ノ豫約ノ有效ナルコトハ明白ナル所ナリ然ラバ同ヘノ論理キ由リ婚姻  
ノ豫約モ認メサルヘカラス之ヲ認メストスルニハ他ニ理由ナカレヘカラス  
講師 予ハ婚姻ノ豫約ヲ以テ無効力リトスル者ナリ其理由ハ實ニ法學志林第  
二十九號明治三十五年三月二十日發行ニ掲載シタテモトテ不リ今其大要ヲ略

述セハ婚姻ニ付テハ法律ハ嚴ニ其實質上並ニ形式上ノ要件ヲ規定セタルニ

拘ハラズ婚姻ノ豫約ニ付テハ何等規定スル所ナクモ以テ若シ之ヲ有效ナリトセム豫約ニ依テ法律ヲ適用ヨ免ルルヲ得ヘシ随テ法律ヲ規定スル所ニ其效ヲ失フニ至ルルヲ特ニ法律ハ婚姻ニ付テハ當事者ノ自由意思ヲ必要ト爲シタリ而シテ其意思ハ婚姻ノ當時ニ現存スルヲ要シ其以前ニ存在シタルヲ以テ足レリトセサルヤ固ヨチ疑ヲ容ルルカラズ又婚姻ハ其性質上固ヨチ強制履行ヲ許サズ且第四百十四條ハ人事ノ關係ニ適用スルニ以テ規定ニ非ズレハ豫約不履行ノ場合ニ依リ損害賠償ヲ請求スルヲ得テ履行ノ要ガラス若シ損害賠償ノ義務ヲ認ムルトキハ間接ニ豫約ノ履行ヲ強要スルヲ得セシムル所以ナルヲ以テ當事者ノ自由意思ヲ妨クルノ結果ヲ生シ法律ノ趣旨ニ反スルモノト謂フヘシ加之法律ハ婚姻ニ付テハ離婚ノ原因ヲ規定スルモ婚姻ノ豫約ニ付テハ之カ解除ノ原因ヲ規定セサルヲ以テ若シ其豫約ヲ認メタリトセハ通常ノ契約解除ノ原因ニ依ルノ外如何ナル理由アルモ當事者ノ一方ヨリ之ヲ解除スルヲ得ザルヘク縱令婚姻成立後ニ於テハ離婚ノ原因タズレハキ事項カ豫約中ニ生スルコトアルモ當事者ノ尙ホ其豫約ヲ履行セサルヲ得

ナルニ至ルヘク其不當ナルコト辯ヲ埃タサルナリ故ニ法律ハ婚姻ノ豫約ヲ認メサルモノト解釋セサルヲ得ス

講師 第七百七十二條ノ所謂父母ノ同意ハ縁組又ハ婚姻ニ因リテ他家ニ入りタル者カ更ニ婚姻スルトキハ實家ノ父母ノ同意ヲ要スルヤ

生徒 之ヲ要セスト信ス其理由ハ第七百七十三條ニ「其家ニ在ル父母」トアリ「其家」トハ自己ノ屬スル家ニシテ實家ノ如ク嘗テ屬シタルコトアル家ヲ云フニ非ス若シ然ラスンハ唯リ婚姻又ハ縁組ニ因リテ其家ニ非サル場合ノミナラス分家ヲ爲シタル者ノ如キモ同一ニ論セサルヘカラス

本宗を従 通 於 本 職 者 不 亂 於 末 (推南子)

本宗を従 通 於 本 職 者 不 亂 於 末 (推南子) 此の語は、自らの職に専ら心を注ぎ、他を管見せず、或は管見せしむるも、其の職に専ら心を注ぐべきことを示す。又、本宗を従ふは、本職を専ら守るべきことを示す。通 於 本 職 者 不 亂 於 末 此の語は、本職に専ら心を注ぎ、他を管見せず、或は管見せしむるも、其の職に専ら心を注ぐべきことを示す。又、本宗を従ふは、本職を専ら守るべきことを示す。

備船契約論 其二

法學士 加藤 正 治

第二 他ノ契約トノ區別

一 備船契約ノ定義並ニ其性質 備船契約トハ當事者ノ一方カ船舶ノ全部若クハ一部ヲ貸切リ之ニ船積シタル物品又ハ乗込ミタル旅客ヲ運送スルコトヲ約シ相手方カ之ニ報酬即チ運送賃ヲ與フルコトヲ約スル一種ノ運送契約ナリ 備船契約ノ性質ニ付テ古來學者ノ説ク所ヲ見ルニカナレバ、之ヲ Contrat de Louage ナリト云フモ其賃借トハ果シテ物ノ賃借ナリヤ將テ勞務 (service) 若クハ仕事 (ouvrage) ノ賃借ナリヤ示サズ (Disons LXXX) ラン、之ヲ無名契約ノ一種ト算シ物ノ賃借ニシテ同時ニ勞務ノ賃借ヲ兼スルモノナルコトヲ組織セリ (D. 19, 5) 換言スレバ今日ノ所謂貸賃借契約ト雇傭契約トヲ兼テタルモノナリト

云フニ在リ佛國ニ在リテハ千六百八十一年ノ路馬十四世「*オルドナシ*」ニ並ニ之ヲ襲ヒタル千八百七年發布即チ現行商法第三七三條ニ在リテモ備船ノ貸借 (*Louage de un vaisseau*) ナル文字ヲ用ヒ備船契約即チ船船貸借契約ノ如ク見ユト雖モ學者ハ文字ヲ以テ法文ノ真意ヲ誤解スヘカラスト爲シリオンカンノ如キハ其内ニ純然タル物ノ貸借契約ト仕事ノ貸借契約運送契約トノ二者ヲ包含スルモノト言明シタルスレモ亦法文ハ所謂備船契約ノ場合ヲ見タルモノナルトテ詳述セテ (*Lyon-Cam, V. n. 621; Geop. et Laurin, II. p. 9 et suiv.*) 然リ而シテ運送契約其モノノ性質ニ付テハ「*リオンカン*」ト別項 (*lit. p. 550*) ニ於テ同時ニ寄託 (*Dépôt*) ト請負 (*Louage d'ouvrage*) トノ成立スル混合契約ナリト説明セリ蓋シ當初佛國商法草案第百五條ニ於テ運送契約ハ *Louage* ノ契約ト寄託トヨリ成立スル混合契約 (*Contrat mixte*) ナリト云フ定義的規定ヲ設ケタレトモ是レ寧ロ理論的學說ニシテ法文ニ掲クヘキモノニ非スト爲シ立法部ニ於テ之ヲ删除シタレトモ其理論的主意ニ照シテ之ヲ沒了シタルニ非ス故ニ運送契約ハ右ニ契約ヨリ成立スル混合契約ナリト云フニ在リ瑞西債務法第四五〇條ハ運送契約ヲ委任 (*mandat*)

ノ一種ニ列ス 蓋シテ備船契約ハ「*リオンカン*」ト別項ニ設ケタルニ對シテ蓋シテ我商法ハ獨商法ヲ母法トシテ取リタテトテ何人モ疑ハサル所ニシテ此點ニ關スル獨逸學者ノ說ヲ見ルニ運送契約ト請負契約 (*Locatio conductio operarii*) トナリト云フ說多數ニシテ亦有力ナリ例ヘハ「*リオンカン*」ト「*リオンカン*」ト「*リオンカン*」ト等皆然リ裁判例モ亦皆之ニ同意ス獨逸高等商事裁判所判決集十三卷一三五頁同二十卷三四二頁) 予モ亦實ニ其當ヲ得タルヲ信スル者ナリ蓋シ近世ノ運送方法タルヤ大ニ古ノモノト其趣ヲ異ニス古ニ在リテハ荷送人タル商人カ自ラ運送品ニ伴隨シ運送人ヲ指揮シテ之ヲ目的地ニ到ラシムルヲ例トス海上運送ニ在リテハ予カ既ニ備船契約ノ經濟的沿革ニ於テ多少陳述シタルカ如ク備船者タル貿易商人自ラ船船ニ乘込ムカ又ハ其番頭手代等ヲ乘込マシメテ積荷ニ關スル指揮處分ヲ爲スコトヲ常トシタルカ故ニ當時ニ在リテハ「*リオンカン*」ノ說ノ如ク備船契約ハ船船ノ貸借ニ加フルニ船員等ノ雇傭契約ヲ以テシタルモノナリト云フ說或ハ當ヲ得タルヤモ知ルヘカラス然レトモ今日ニ在リテハ運送自體カ全ク其仕組ヲ異ニシ荷送人ハ毫モ積荷ニ伴隨スルコトナク運送人ハ運

送契約ニ因リテ物品ノ受取運送保管及ヒ引渡ニ關シ總テ責任ヲ負擔スルモノ  
 ニシテ物品ヲ受取リテヨリ到達地ニ著シ引渡サルルマデヲ一切ノ仕事ヲ概括  
 シテ其仕事ノ結果(Central opus)ヲ以テ當事者契約ノ目的ト爲スモノナリ故ニリ  
 オンカン若クハ佛國商法草案ノ如ク其中ノ各行爲ヲ分離シテ之ヲ混合契約ト  
 看ルヘカラサルコト固ヨリ明ケン細ク運送契約ハ統一シタル「コントラクト」ス、  
 スイグチリスナリ又當事者ハ決シテ運送具ノ如何ヲ以テ契約ノ主タル目的ト爲  
 スモノニ非ス運送具ハ唯運送ノ手段ノミ其鐵道ヲ將タ荷馬車タルカ如キハ  
 軍口其從タル條件ニ過キス當事者ノ期スル所ハ運送品カ安全ニ到達地ニ著ス  
 ルニ在ルノミ故ニ運送契約ヲ以テ運送具ノ貸借契約(Locatio conductio rei)ト看  
 ルハ頗ル其當ヲ得ス又當事者ハ仕事ノ結果ヲ目的トスルモノニシテ運送人ノ  
 勞務其モノニ非ス故ニ運送人ハ事實上如何ニ多クノ勞務ヲ供シタルモ結果ニ  
 シテ得ル所ナクシテ報酬即チ運送賃ヲ請求スルコト能ハス是レ我商法第三百  
 三十六條ニ於テ運送品ノ全部又ハ一部カ不可抗力ニ因リテ滅失シタルトキハ  
 運送人ハ其運送賃ヲ請求スルコトヲ得スト規定スル所以ナリ故ニ運送契約ハ

之ヲ以テ雇傭(Locatio conductio operarii)ト看ルヘカラス又運送人ハ運送中運送品  
 ヲ保管スル義務アルモ保管ハ運送ニ伴フ自然ノ結果ニシテ契約ノ主タル目的  
 ニ非ス故ニ全ク保管ヲ必要トセサル人租若クハ巨石鐵塊等ニ付テモ運送契約  
 ハ成立シ得ヘシ故ニ運送契約ヲ以テ寄託ノ一種ト看ルヘカラス又運送契約ハ  
 之ヲ以テ委任ト看ルヘカラサルコトハ最モ明カナリ何トナレハ委任ハ法律行  
 爲ヲ以テ契約ノ目的ト爲スモノニシテ運送契約ハ運送シタル仕事ノ結果ヲ目  
 的トスレハナリ人或ハ運送契約ヲ以テ民法中ノ準委任(民法第六五六條ニ擬ス  
 ル者アリ(志田博士日本商法論商行為編一五七頁參照然レトモ準委任ハ猶ホ委  
 任ノ如ク唯一方ハ法律行為ヲ契約ノ目的トシ一方ハ法律行為ニ非サル事務ノ  
 委託ヲ契約ノ目的トスルモノニシテ二者ノ差異タル單ニ此一點ノミニ存シ其  
 以外ノ點ニ於テハ悉ク皆同一ナルナリ然ルニ委任ハ無償ヲ本則トス(此點ニ關  
 シテハ寄託モ亦然リ民法第六四三條第六四八條第六五七條第六五六條參照隨  
 テ準委任モ亦然リ然ルニ運送契約ナルモノハ補助的商行為トシテ發遣ニ發遣  
 ノ沿革上既ニ有償契約ノ部類ニ屬スルモノナリ(Endemann III. P. 296)ト云ハルベシ)

III. 539) 等亦運送契約ノ有價契約タルコトヲ認メ獨逸高等商事裁判所判決集第十三卷一三五頁モ亦運送契約ノ要素トシテ有價ナルコトヲ認ム人或ハ之ヲ批難シテ運送契約ノ有價タルハ其商行為タルカ爲メニシテ換言スレバ營業トシテ之ヲ行フカ爲メニシテ契約本然ノ性質トシテハ決シテ有價タルヘキモノニ非スト曰フ者アラシキ程有價無價ハ契約類別ノ大題目ト爲ルヘキモノニ非ス委任ニマレ寄託ニマレ民事行爲トシテハ無價ヲ本則トスレトモ商行為トシテハ有價ヲ本則トス故ニ予モ亦有價無價ニ非常ナル輕重ヲ置ク者ニ非スト雖モ運送契約ニ付テ予カ特ニ此點ヲ云爲スル所以ニモノハ該契約タル有價ヲ以テ發達シ無價ヲ以テ發達セル委任等ト其性來ノ本質ヲ異ニスルカ爲メタラシムハ非ス之ニ反シテ請負ニ至リテハ性來有價契約ニシテ此點ニ於テモ亦運送契約ハ其範疇ニ列スヘキモノタリ若シ夫レヲモテ如ク運送契約ヲ以テ一種ノ無名契約ト爲シ民法ノ有名契約中ノ何レノ範疇ニ列スヘキモノニ非ストスルニ至リテハ必スモ應理由ナキニ非ス彼ノ運送契約ヲ以テ民法中ノ專委任ニ擬スルノ學說ハ蓋シ此派ニ屬スル一説トシテ看ルヘキモノニハ非ズ

ナキカ船舶契約ノ當事人ニ對シテ常ニ其權利義務ハ其性質ニ因リテモ亦其  
 二 船舶貸借契約トノ區別 二者性質上ノ理論的區別ハ前ニ既ニ之ヲ述ベタリ即チ船舶契約ハ請負契約ノ一種ニ屬シ船舶ニ依リテ運送シタル仕事ノ結果ヲ契約ノ目的トシ貸借契約ハ之ニ反シテ船舶ノ使用並ニ收益ヲ爲シタルコトヲ目的トスル契約ナリ之ヨリ生ズル二者ノ效力上ノ重要ナル差異一ニテ述ブレハ前ノ條ニ詳シク述ベタルニ同ク其性質上ノ區別ハ前ニ既ニ之ヲ述ベタルニ同ク  
 (イ) 船舶ノ貸借借ハ之ヲ登記シタルトキハ爾後其船舶ノ上ニ物權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其效力ヲ生ズ(商法第五五六條之ニ反シテ船舶契約ハ單ニ當事者間ニ契約關係ヲ生ズルニ止アリ第三者ニ對スル物權の效力ヲ生ゼス) (ロ) 船舶ノ賃借人カ商行為ヲ爲ス目的ヲ以テ其船舶ヲ航海ノ用ニ供シタルトキ例ヘハ賃借人自ラ其船舶ヲ利用シテ運送營業ニ從事シタル場合ノ如キハ其運送營業ニ關スル事項ニ付テハ第三者ニ對シテ船舶所有者ト同一ノ權利義務ヲ有ス(商法第五七七條之例ヘハ船長ノ過失ニ因リテ船舶ノ衝突ヲ來シ之カ賠償ヲ爲スヘキ場合ニ於テ賠償責任者ハ船舶所有者ニ非ズシテ船舶ノ賃借人カ

商法 船舶契約論

船舶所有者ハ唯所有者トシテハ權利ヲ有スルニ止マリ第三者ニ對シテ何等ノ責任ノ下ニ立タズ之ニ反シテ備船契約ノ場合ニ在リテハ備船者ハ第三者ニ對シテ何等ノ責任ノ地位ニ立タズルカ故ニ船長ノ過失ニ因リテ船舶ガ衝突モル場合ニ於ケル賠償責任者ハ備船者ニ非スシテ船舶所有者タリ彼ハ備船者カ更ニ第三者ト運送契約ヲ爲シ契約上ノ責任ヲ負擔スル場合ニ在リテモ其契約ノ履行カ船長ノ職務ニ屬スル範圍内ニ於テハ船舶所有者ハ其第三者ニ對シテ履行ノ責ニ任スルナリ(商法第六一二條蓋シ船長ハ備船者ノ指揮監督ノ下ニ立タズレハナリ)

(ハ)船舶ノ賃借人ハ船舶ノ利用ニ關シテ船舶所有者ト同一ノ責任ヲ負擔スルカ故ニ若シ第三者ト運送契約ヲ結ヒテ運送ニ從事スルトキハ其相手方ニ對シテ發航ノ當時船舶カ安全ニ航海ヲ爲スニ堪フルコトヲ擔保スル義務アリ(商法第五九一條)船舶カ安全ニ航海ヲ爲スニ堪フルトハ最モ汎ク解釋スヘキモノニシテ船體ノミナラス其船員ノ乘組等悉クヲ包含スルモノナリ故ニ船舶賃借人ハ其備船者及ヒ荷送人ニ對シテ常ニ此擔保義務ヲ負ヒ特約ニ因リテモ亦其

責任ヲ免ルルコトヲ得タルナリ(商法第五九二條之ニ反シテ備船者ニ在リテハ第三者ニ對シテ斯ル擔保義務ヲ負フコトナキカ故ニ自來船舶ハ機裝船員ノ乘組船體ノ健全等ニ付キ毫モ顧慮スルハ必要ナキナリ)

右ノ如ク船舶賃借契約ト備船契約ト其效力上ニ非常ナル差異アリ故ニ其賃借契約ト視ラルルカ將テ備船契約ト認ララルルカハ當事者ノ利害上ニ非常ナル關係アリ有テ故ニ二者ノ區別ハ實際問題トシテ極メテ重要ナル事項ニ屬ス隨テ英國等ニ於テハ大ニ爭訟ノ據ト爲ラレタル問題ナリ今船舶所有者及ヒ其船舶ヲ舉ゲテ他人ノ使用ニ委シタルニ當リ如何ナル事實ノ存在スルカ以テ之ヲ賃借トシ將テ備船契約トスルカ是レ事實問題トシテ固ヨリ各場合ノ事實ニ從ヒテ裁判所之ヲ認定シ以テ衝突等ノ場合ニ於ケル責任ノ歸屬者ヲ定ムヘキハ固ヨリ當然ナリト雖モ事實問題ト亦頗ル重要ナルカ故ニ茲ニ此點ニ關スル外國ノ例二三ヲ示ス

英國ニ於テハ該問題ニ關シテ屢々實例ヲ生シ裁判所試契約名義ノ如何ニ拘ラズ其實質ニ據リテ判定シ例ヘキ契約ノ名義ニ「賃借」トシ「下稱」スル

モ必スシモ備船契約トシテ之ヲ看ス成ハ之ヲ貸借契約ト看タル例モ亦多シ  
 而シテ英國ノ實際ニ於テハ通常船舶貸借ノ場合ニ左ノ三種アルカ如ク即チ(一)  
 ハ船舶ノ機軸ノミヲ爲シ船員ヲ乗組マシメタル船舶ヲ貸與スル場合(Loatio na-  
 ve)ニシテ是レ我船舶貸借ニ該當シ船員ノ過失ニ因リテ船舶カ衝突セシ場  
 合ノ如キハ貸借人カ其賠償ノ責ニ任スルコト我商法ト異ナルコトナシ(二)ハ機  
 軸ヲ爲シ且船員ノ乗組モ亦之ヲ終リ航海ヲ爲シ得ル有様ニ在ル船舶ヲ貸與ス  
 ル場合(Loatio navis et operam magistri et nauticorum)ニシテ此場合ハ恰モ我備船契  
 約ニ該當シ船員ハ總テ船舶所有者ノ監督ノ下ニ立テテ其勞務ニ從事シ(三者  
 ニ對シテハ船舶所有者常ニ其責ニ任ス向ホ其他ニ第一ト第二ト中間ノ場合ア  
 リ即チ海員ノ乗組アルモ船長ノ任命ナクシテ貸與スル場合ニシテ船舶ノ借主  
 ニ於テ船長ヲ任命ス此場合ニ於テハ船長ハ船舶所有者ノ代理人ニ非ス船舶所  
 有者ハ船舶ノ統御權並ニ占有ヲ失ヒ居ルカ故ニ所有者トシテノ責任ヲ負ハテ  
 ルコトニ判例一定セリ(Ulgeatit, Charter parties, P. 12) (三)ハ船舶所有者船舶ノ機軸  
 ヲ爲シ船員ヲ乗組マシメ物品ノ運送ヲ約スル場合(Loatio operis vehendarum actor-

um)ニシテ是レ我商簡ノ物品運送契約ニ該當シ船舶所有者ハ固ヨリ第三者ニ  
 對シテ所有者トシテノ責任ヲ負フ(Macaulan, P. 35)細テ此等ノ場合ヲ通シテ積  
 フルニ英國ニテハ備船契約タルカ貸借契約タルカヲ區別スル事實上ノ標準  
 ハ船員殊ニ船長ノ選任並ニ之カ指揮監督ノ權カ何人ノ手ニ存スルカニ在ルモ  
 ノノ如ク即チ船長ノ任命權ニシテ船舶所有者ノ手ニ存スレハ船舶所有者ハ船  
 長ニ依リテ依然トシテ船舶ヲ占有シ(三者ニ對シテ所有者トシテノ責任ヲ負  
 擔セサル)カヲナルナリ(Carvers, Carriage by sea, P. 126) 然レモ此等ノ場合  
 佛國ニ於テハ備船契約ト看ルヘキ場合ニハ船舶ノ機軸船員ノ乗組等總テ船舶  
 カ航海機能ノ有様ニ在ルコトヲ前提ス之ニ反シテ貸借ノ場合ニハ貸借人總  
 テ之ヲ爲スル例トシ(Lyon-Caen, V. n. 622; Cresp et Laurin, II, P. 10) 然レモ  
 獨國ニ於テハ備船契約ノ場合ニ在リテハ船舶ノ占有カ依然トシテ船舶所有者  
 ノ手ニ存スルコトヲ必要トシ且船舶所有者ハ他人ノ物品運送ヲ委託アレ航海  
 中ハ勿論險揚港ニ到達シテ引渡ヲ了スルニ至ルマテ其物品ノ保管ヲ爲スコト  
 ハ蓋シ(Boyens, II, P. 79) 然レモ此等ノ場合ニ於テハ船舶ノ機軸船員ノ乗組等總テ船舶



要スルニ何レノ實例ニ見ルモ備船契約ノ場合ニ於テハ船員中少クトモ船長ノ任命權ハ依然トシテ船船所有者ノ手ニ存シ船船所有者ハ船長ヲ指揮監督シ船長ヲ通シテ船船ノ占有ヲ保持セサルヘカラス我直法ニ於テモ備船契約ノ場合ハ船船所有者ニ於テ船船カ航海ニ堪フルコトヲ擔保スル義務アリ又第六百十二條ニ於テ備船者カ更ニ第三者ト運送契約ヲ締結シタル場合ニ於テ其契約ノ履行カ船長ノ職務ノ範圍内ニ屬スル事項ニ付テハ船船所有者ハ其履行ノ責任スルコト爲テ點點以テ考フルモ備船契約ノ場合ハ船船所有者兼船長ノ任職並ニ指揮監督ヲ爲スモノタルコトヲ豫想セリ故ニ我法律ニ於テモ此問題ヲ決スルニ付テノ事實上ノ標準ハ外國ノ例ト大ナル運庭アルヘカラス、實例ニ於テ然リ而シテ我國ニ於テハ之ニ付テ未ダ多ク實例ヲ生シタルコト聞カス隨テ判例ヲ舉ゲテ之ヲ證スルコト難シト雖モ目下ノ問題トシテ其何レニ屬スヘキヤヲ決スヘキ實例ハ御用船ナリトス御用船ノ性質ハ固ヨリ其引上テテ供用スル契約ニ因リテ判定セザルヘカラスハ論ヲ按タズ今其契約ノ要領カルモノヲ聞クニ船船ノ艦長船員ノ乗組就中船長ノ任命之カ指揮監督ハ船船所有者ニ

於テ之ヲ爲スヘキモノニシテ又船船ノ衝突等ヨリ生スル第三者ニ對スル賠償責任モ亦船船所有者ニ於テ負擔スル所ニシテ政府之ヲ負擔セズ唯政府ニ於テ船船供用中暴民ノ襲撃ヲ受ケ又ハ測量未済ノ場所ヘ航海セシメタルニ因リ損害ヲ生シタル場合ハ政府之ヲ負擔ス而モ船員ノ過失ニ出テタル場合ハ此限ニ在ラス又御用船ニシテ修理其他ノ故障ニ因リ任意ニ使用スルコトヲ得ザルトキハ直チニ相當ノ代船ヲ出スコトヲ要ス是レ畢竟船船カ航海ニ堪フルコト能ハナル場合ニ於ケル擔保義務ヲ定メタルモノト解セザルヘカラス此他船船一部ノ使用ヲ認メタル場合アリ總テ此等ノ條件ヲ綜合シテ考フルニ御用船カ其運送船トシテ使用セラレル場合ニ於テハ備船契約ノ一種ト看ルヲ以テ至當トスヘキナリ(右御用船ニ對スル契約ノ要領ハ明治三十三年北清事件ニ據ル) 三 陸上運送契約ノ區別 海上運送ト陸上運送トハ之ヲ空ニ想像スルトキハ唯其路筋カ一方ハ海上ニシテ一方ハ陸上タルノ差異ニ止マルカ如シト雖モ其海路タルト陸路タルトハ二者ノ發達ニ根本ノ大影響ヲ與ヘタルモノニシテ實ニ海商法ナル特別規定ノ成立アルニ至リタルモ亦之カ爲メナリ換言スレバ

海商法全部ノ規定ハ實ニ陸上運送トノ差異ヲ示スモ云々ト云フ可ナリ海  
 陸運送ニハ其運送具トシテ必ス船舶ヲ必要トシ爲メニ船舶ニ關スル特別規定  
 ノ必要アリ又航海ノ事業タル頗ル危険ニ富ムカ故ニ之カ發達ヲ圖ルカ爲メニ  
 ハ其危険ヲ多數者間ニ分配スルノ要アリ是ニ於テカ會社思想ノ未タ能ク發達  
 セタル時代ニ在リテハ船舶ヲ共有シテ以テ航海ノ事業ニ從事ス爲メニ船舶共  
 有並ニ船舶管理人ノ規定ノ必要アリ又船舶所有者ハ往昔運送營業ナルモノノ  
 發達セザル時代ニ在リテハ貿易商人トシテ自ラ船舶ヲ指揮シ自己ノ船舶ニ自  
 己ノ貨物ヲ積込ミテ遠征ニ從事シタリト雖モ運送營業ノ發達スルニ至リテハ  
 船舶所有者ハ運送營業ノ資本家トシテ陸上ニ退キ敢テ航海ノ危険ヲ冒シテ其  
 實務ニ從事スルコトヲ爲サス船長ナルモノヲ任命シテ自己ニ代リテ船舶ヲ指  
 揮シ且航海ノ實務ニ當ラシム是ニ於テカ法律上船長ナルモノノ地位ヲ認メテ  
 之ニ職務權限ヲ與フルノ必要アリ爲メニ船長ニ關スル特別ノ規定アリ又運送  
 契約其モノニ付テモ先ツ其成立ニ際シ陸上運送ニハ運送狀ヲ作ルヲ例トシ我  
 商法ハ運送狀ニ付テハ唯第三百三十二條一箇條ヲ規定シ運送狀ノ作成ヲ豫想

シ其記載事項ヲ定メタルノミニシテ法律上果シテ如何ナル效力運用アルモノ  
 ナルヤヲ知ルコトヲ得スト雖モ外國殊ニ獨逸商法等ニハ運送狀ノ運用並ニ效  
 力ニ關スル重要ナル規定アリ(獨逸商法第四三二條第四三六條)海上運送ニハ  
 備、船契約書又ハ船荷證券ヲ作ルヲ例トス是レ亦二者ノ發達ヲ異ニスルニ基因  
 ス陸上運送ニハ此他貨物引換證ナルモノアリト雖モ是レ頗ル後世ノ發達ニ屬  
 シ海上運送ノ船荷證券ニ模倣シテ製作シタルモノニシテ其實用モ亦並ニ船荷  
 證券ノ下ニ在リ又契約ノ效力並ニ終了ニ付テモ例ハ船、積期間、墮揚、期間任意  
 ハ解除不可抗力ニ基ク解除法定ノ原因ニ因ル終了等海上運送ニハ各特別規定  
 ヲ設クルノ必要アリ又積荷ハ船舶所有者カ運送契約ニ因リ負擔シタル契約義  
 務ヲ超過シタル以外ニ於テ航海中船舶ト共ニ共同ノ危険ニ浴スルコトアリ而  
 シテ其共同ノ危険ヲ免レシムル爲メニ船長カ故意ニ爲シタル損害及ヒ費用ハ  
 共同海損ノ精算ニ基キテ積荷當事者亦之ヲ負擔セザルヘカラス爲メニ共同海  
 損ナル特別規定アリ又船舶所有者ハ船員ノ行爲ニ對シテ民法ノ普通ノ原則ト  
 異ナリ海産有限ノ責任ヲ負スカ如キ其他特種ノ原因ヨリ船舶、積、積者ナルモノ

ヲ認メ之ヲ保護スルハ必要ナリ(海ノ規定中條條ハ外船ノ契約關係ニ當テ海上運  
 送ニ一貫テ規定セザル以上ノ如ク海商法中ノ運送ニ關スル規定ハ總テ特種ノ發  
 達ヲ必要ヨリ出テタルモノニシテ是レ普通陸上運送トノ差異ヲ示ス(海  
 ノタリ此種ノ欲知ハ海ノ運送ニ關スル條條ニ於テハ海商法中條條ニ當テ  
 四ノ儲備ノ物品運送契約ト區別シ一方ハ物品若クハ旅客ヲ積入レラルルハ  
 船舶ノ全部若クハ一部ヲ契約ノ目的トシ一方ハ儲備ノ物品ヲ契約ノ目的トス  
 其結果トシテ前者ニ在リテハ之ニ積入ルル貨物ハ不特定ナルヲ例シ儲備者  
 ハ自己ノ物品ノミナラス更ニ第三者ト運送契約ヲ締結シ其物品ヲ積積セザル  
 ルコトヲ得即チ商法第六百十二條ニ於テ儲備契約ノ場合ニハ儲備者ハ更ニ第  
 三者ト運送契約ヲ爲シ得ルコトヲ豫想シ此場合ニハ其契約ノ履行カ船長ノ職  
 務ニ屬スル範圍内ニ於テハ船舶所有者ノミ第三者ニ對シテ直接ニ履行ノ責ニ  
 任スルナリ儲備ノ物品運送契約ノ場合ニ在リテモ理論上ハ荷送人ハ更ニ第三  
 者ト運送契約ヲ締結スルコトヲ得サルニ非ズルモ其契約ハ單ニ契約當事者間  
 ノ關係ニ止マリ第三者タル船舶所有者ニ對シテ何等ノ關係ヲ及スモノニ非ズ

又儲備契約ノ場合ハ儲備ノ物品運送ノ場合ニ對シテ契約締結ノ方法ニ經濟上非常  
 ナク差異ヲ前者ハ不特定ノ航路ニ對シ臨時ノ者ニ例トシ又船體も左側大  
 ナクサバノ常トス隨テ各契約毎ニ船體ノ勿論船積積揚泊期間運送貨航路責  
 任ノ範圍等ヲ定ムルヲ常トス之ニ反シテ儲備ノ物品運送ノ場合ハ特定航路  
 シテ定期航海ヲ例トシ船體も亦益々大ナルニ至ルノ傾向アラントス隨テ船  
 舶所有者ニ於テ豫メ運送ニ關スル總テノ條件ヲ定メ例ハ運送率定期發著表  
 等之ヲ定メ之ヲ世ニ廣告シテ以テ運送品ヲ募集シ應募ニ因リテ契約成立ス  
 隨テ同一約款ノ下ニ多數荷送人カ運送契約ヲ締結セザルカ故ニ儲備契約ト儲  
 備ノ物品運送契約トハ二者經濟的行動ノ上ニハ大ナル差異アリ合ニ其  
 第三條儲備船約ト儲備ノ物品運送契約トノ規定ノ比較致スル共同ニ其  
 本節ニ於テハ多クノ論議ヲ費サズ單ニ我商法ニ於テハ二者ノ規定ノ比較對照  
 ノスニ止メント欲ハ茲ニ其原本ニ關スル條條ニ當テ儲備契約ノ關係ノ商法  
 一儲備契約成立上ノ比較事二者共ニ締結成契約ニシテ成立上差異ナシ儲備契約

フ場合ニ於テハ各當事者ハ備前契約書ヲ交付シテ請求スルコトヲ得ルハ同  
 リ言フ埃クハ船荷證券並ニ其原本ニ關スル規定ハ備前契約ノ場合モ箇箇ノ物  
 品運送ノ場合モ同一ナリ商法第六二〇條第六二三條ニ於テハ此種運送  
 二部契約ノ效力生ラズ比較ニ箇箇ノ物品運送ノ場合モ運送人カ共同スレハ大  
 體ニ於テ全部備前ノ場合ト略ホ同ニ其效力ヲ生ラズ一部備前ノ場合ニ於テ其總  
 備前者カ共同シタルトモ亦同シ蓋シ商法第五百九十四條乃至第六百條ハ全部  
 備前ニ關スル規定ハ一部備前又ハ箇箇ノ物品運送ノ場合ニ準用セラレルナリ  
 〔商法第六〇ニ條末項第六〇三條ニ於テハ〕  
 (イ) 船積並ニ陸揚期間ニ備前契約ニ在リテハ運送品ヲ船積若クハ陸揚スル  
 必要ナル準備並整頓シタルトモハ船積所有者ハ運送品カ運送品者ニ其通知ヲ發  
 スルコトヲ必要トシ箇箇ノ物品運送ニ在リテハ運送品カ運送品者ニ其通知ヲ發  
 送ハズ運送品ヲ船積若クハ陸揚スルコトヲ要ス〔商法第五百九十四條第六〇二條又  
 船長第三者ニ於テ荷物ヲ受取ルベキ場合ハ第五百九十五條ノ規定ヲ如キモ一  
 部備前及ヒ箇箇ノ物品運送ノ場合ニ準用シ得ヘシ〕

(ロ) 發航請求權 之ニ備前者ノ發航ヲ請求スル場合ト船長ノ進ミテ發航スル  
 場合トアリ其區別ハ前記ノ如シ然レモ發航ノ請求權ハ船長ノ進ミテ發航スル  
 全部備前者ハ運送品ノ全部ヲ船積セザルトキト雖モ船長ニ對シテ發航ヲ請求  
 ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ備前者ハ運送品ノ全部ノ外運送品ヲ全部ヲ船  
 積セザルニ因リテ生シタル費用ヲ支拂ヒ得ホ船積所有者ノ請求アルニ依リテ相  
 當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス〔商法第五百九六條〕一部備前者カ共同シタルトモ又  
 ハ箇箇ノ物品ノ荷送人カ共同シタルトモ亦同一條件ノ下ニ發航ヲ請求スル  
 コトヲ得〔キナリ〕  
 船積期間經過ノ後ハ備前者カ運送品ノ全部ヲ船積セザルトモ雖モ船長ハ直  
 チニ發航ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ備前者カ全部ノ船積ヲ爲サズシテ發  
 航ヲ請求シタル場合ト均シク備前者ハ運送品ノ全部ノ外運送品ノ全部ヲ船積  
 セザルニ因リテ生シタル費用ヲ支拂ヒ得ホ船積所有者ノ請求アルトモ相當ノ擔  
 保ヲ供スルコトヲ要ス〔商法第五百九七條〕箇箇ノ物品運送ノ場合ニ在リテモ亦荷  
 送人カ運送品ノ船積ヲ怠リタル事案ハ船長ハ直チニ發航ヲ爲スコトヲ得然レ



(イ) 發航前ノ解除ニ全部備船者運送貨ノ全額往復航費ヲ爲スルキ場合ニ其歸航ノ發航前並ニ他港ヨリ船積港ニ航行スヘキ場合ニ其船積港ヲ發スル前解除スル場合ニ運送貨ノ三分ノ二商法第五九八條尙ホ附隨ノ費用並ニ立替金ヲ支拂フ責ヲ負フ點ハ此三ノ場合ヲ解除ニ共通ニシテ共同海損並ニ救護救助ノ費用負擔ハ後ノ二ノ場合ノ解除ニ限リ第五九八條參照ニ依リ得ルモノナリ

一部備船者又ハ荷送人カ他ノ備船者又ハ荷送人ト共同シテ解除ヲ請求スルトキハ全部備船ノ場合ノ解除ト其賠償額ヲ同シク爲スルモノト爲スルモノトナリ

一部備船者又ハ荷送人カ他ノ備船者又ハ荷送人ト共同シテ解除ヲ請求スルトキハ運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス但船積所有者カ他ノ運送品ヨリ得タル運送貨ノ之ヲ控除ス商法第六〇二條第二項既ニ運送品ヲ全部又同ノ一部ノ船積後ニ在リタル他ノ備船者又ハ荷送人ノ同意ヲ得スルコトヲ解除ヲ爲スコトヲ得ス同條第二項第六〇三條

(ロ) 發航後ノ解除ニ全部備船者運送貨ノ全額ヲ支拂フ外第六百六條第三項ニ定ムタル債務ヲ辨濟シ且陸揚爲メニ生スル全損害賠償額又ハ相當ノ擔

保ヲ供シ始メテ解除ヲ爲スコトヲ得商法第六〇〇條

一部備船者又ハ荷送人ハ共同スルニ全部備船者ノ解除ノ場合ト同一ナリ若シ他ノ備船者又ハ荷送人ノ同意ヲ得スルコトヲ得スルコトヲ得ス發航前ニ於テ船積後ハ解除ヲ許ササルヲ以テ推知スルコトヲ對船積ノ支拂ヘコトヲ要ス

(5) 不可抗力ニ基キテ各當事者カ解除スル場合ニハ前條又ハ荷送人ハ發航前ノ發航後ノ解除ニ不可抗力ニ因リ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト不能ナルニ至リタルトキハ全部備船各當事者カ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得一部備船ノ場合並ニ簡筒ノ物品運送ノ場合亦同シ商法第六一四條第一項第六六條第一項

(ロ) 發航後ノ解除ニ不可抗力ニ因リ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト不能ナルニ因リ解除ヲ爲シタルトキハ全部備船者一部備船者又ハ荷送人ハ運送ノ割合ニ應リテ運送貨ヲ支拂フコトヲ要ス商法第六一四條第三項第六一六條第三項

(ハ) 發航ノ前後ヲ問はず運送品ノ一部ニ付キ不可抗力ニ因リテ運送品カ滅失

シタシテ又不可抗力ニ因リテ契約ヲ爲シタリ目的ヲ達スルニ下能ハズ或  
 場合ヲ生シタルトキハ全部備船者ハ船舶所有者ノ負擔ヲ重カラシメタル範圍  
 内ニ於テ他運送品之船積ムルコトヲ得商法第六一五條一部備船者又ハ荷送  
 人ハ他ノ備船者又ハ荷送人ノ同意ヲ經スシテ解除ヲ爲スコトヲ得但運送人  
 金額ヲ支拂フコトヲ要ス(商法第六一六條第二項)又目録ニ載セズルロイ  
 (2) 一法定ノ原因ニ因ル終了 一船舶カ沈没シタルコト二船舶カ修繕スルコト  
 能ハザルニ至リタル時三船舶カ捕獲セラレタルコト四運送品カ不可抗力  
 因リテ滅失シタルコト此等ノ事由ハカ發生シタルトキハ全部備船者ハ  
 備船者トシテ船積物ノ物品運送契約ノ場合タルトシテ間ハ該契約ハ終了ス  
 而シテ右ノ乃至三ノ事由カ航海中ニ生シタルトキハ備船者又ハ荷送人ハ運送  
 ノ割合ニ應ジ運送品ノ價格ヲ超ヘザル限度ニ於テ運送貨ヲ支拂フコトヲ要ス  
 (商法第六一三條第六一六條第二項)又目録ニ載セズルロイ又  
 一 諸國條約又ハ商議人ハ共同スルニテ全商運送貨ノ船積ムル場合ハ同一ナル  
 船積物ノ積ムル積額ヲ爲スコトヲ得商法第六〇〇條

### 海法ノ沿革ニ付テノ講演

法學博士 松波仁一 郎

商法ノ沿革ハ海法ノ沿革ト或點ニ於テ一致シテ居ル全體世界ノ大商業ト云フ  
 コトニナルトドウシテモ海商ガ先キ立又固ヨリ人間ガ極ク初ノ間ハ陸デナ  
 クレバ交通ガ出来ヌケレドモ陸デ交通ヲ盛ニヤルニハ警察ノ制度モ整ヒ道路  
 モ十分ニ整ハキバナラヌガ海ニナルト船ヲ一ツ拵ヘレバ道路モイラカケレバ  
 又船ヲ出ストキニハ多少澤山ノ人間ガ乗組シテ行キマスカラ海航其他ニ備  
 ハル準備ニモ割合ニ仕易イカラ先ヅ商業ハ海商ガ起ル唯日本ダケノ事情ヲ觀  
 タル日本ノ大キナ商業ハ海外貿易ヲ以テコトシテ世界ノ大勢モ御分リニナル如ク  
 昔モ商業ヲ以テ商業ガ海商デアラタ果シテ商業ノ初ハ海商デアリスレバ商法  
 ノ初モ矢張海商法デアラコトガ知レル諸君ガ商法ノ沿革トシテ上ノ下ノ海法カ

ラ段段「コシ」ヲ「マ」ニ「マ」ニ「オ」ニ「ロ」ノ海法ヨリ段段降テ佛蘭西ノ商法ト云ク、其御地キニ爲ルヲラウト思フ、是ハ海法ハ沿革ヲ論ズル際ニモ矢張り順序デアアルノデ、此點デハ海法ハ商法ト沿革ヲ論ズル際ニモ爲ラ居ル譯デアアル故ニ、商法ノ沿革トシテ言クテモ海商法ノ沿革トシテ言クテモ同ジデアアル。然ラバ先ツ何處デ商賣ガ起リカト云フト、人生ノ在ル處人間ガ社會ヲ成シテ居ル處ニハ必ズ商業ガ起リカト云フトモ此等ハ今日商業トシテ研究スル程ノ價值ハナク、眞ノ商業トシテ出来タノ所諸ノ波斯ノ西フエニシテ丁度今ノ地中海ノ右ノ方ニ當リ耶蘇教祖ノ生ラセタメシトイフノ邊デアアル餘程大キナ商業ガアツタ、續クイテ、カセージガ起リテ併チガラ今日ニ傳ハル法ガナク今日ニ傳ハルモノノ最古ノモノハ「ロード」海法デアアル。

「ロード」海法ハ地中海ノ東隅ニ「ロード」島ト云フノガアツテ、其島ヲ編纂サレタカラナウ名クルノデアアル、此海法ハ固ヨリ今日ノ如キ法典ノ編纂方法ニテ出来タコトデナイ、何處ノ國ノ沿革ヲ見テモ先ツ法律ハ公法カラ始マル、國家ハ餘リ一箇人間ノ事ヲ構ハズ先ツ民ニ命令シ之ヲ壓制シテ服従セシムルヤウナ法律ヲ

設ケ、人民間ノ事ハ相互ノ自由ニ委テテ、謀キテスガ「ロード」海法ガ海商ノ事ヲ規定スルト云フテモ政府カラ發布シタル規則デナク成慣習ヲ集メテ書イタモノガ商人間ニ行ハレ自然ト法律ノ如キ效力ヲ持ツテ來タニ過デナイ、此海法ノ實質ニハ今日不明ナル點モアリマスケレドモ全體ニ良ク出来テ居ル、就中最モ良ク出来タ居ルノハ投荷ノ事デアアル、是ハ定メテ共同海損ヲ御地キニ爲ララウト思ヒマヌガ、例ヘバ船ニテ十人ノ荷物ヲ運送スル際ニ重クテ皆運バウトスレバ船ガ引繰回ル、ソコデ其中ノ二三ヲ投ゲ船ヲ輕クシテ無事ニ到着シタトキ助カフ事連中カラ荷物ヲ投ゲラレタ荷主ニ辨償ヲシテヤクノデアル、何國ノ共同海損ヲ説ク際ニモ例トシテ此荷投ノ事ガ出テ居ル、之ガ最モ良ク規定サレテ居リ、其他ノ點モ深山定メラレテ居リマス。此海法ノ「ロード」海法ノ原本ト云フモノガ見當ラナイ、千八百餘年マデハ「ツノ」グライキ、セニヌスク、シヒル、ト云フ諸希臘語ニ似タキ島ノナメシ書イタモノガアツテ、其レヲ原本ト信ジテ居ッタガ、全百希臘語ヤ「ヘレ」ニ「シ」語ノ研究盛ナルニ連レテ、其レガ全ク偽物ト云フコトガ分ル、此頃希臘ノ古學問ガ大變盛



ニ爲リマシテ英吉利獨逸佛蘭西亞米利加カラ嶺山希臘ホ人ヲ發シテ居リマス、私  
 ガ歐洲カラ歸リシナニ太平洋デ一緒ニ爲ラタ亞米利加人ナドモ希臘ニ行ツテ編  
 出シ研究ヲシテ居ルノダ、漸ク一部繩ヲタカラ亞米利加ニ報告ニ歸ル所デアル又  
 希臘ニ行ツテ死スマデ掘ツテ研究スルト言フテ居ツタ各學者ヲ本國政府ガ助ケテ  
 亞米利加組獨逸組英吉利組ト云フ組ガアツテ研究シテ居ル、斯クシテ色色ナモノ  
 フ掘出シテ來ルニ付テ今マデ眞ナリト信ジテ居ツタモノガ段段隱ニ爲ツテ來テ  
 「ロード海法」ノ本物ト信ジテ居ツタモノモ此研究ノ盛ニ爲ルニ付ケ彼ノ時分ニ斯  
 ク云フ言葉デナカッタ故ニ是ハ寫本カ翻譯物ニ相違ナイト云フコトニ極々隨  
 今マデ眞トシテ論ジテ居ツタ議論ガ重ツテ來タ  
 本物ガナイノニ、ドウシテ「ロード海法」ノアルコトヲ確ニスルカ又其發荷ニ關ス  
 ル法ガドウシテ「ロード海法」中最モ良ク出來テ居ル點カト云フト、是ハ羅馬法カ  
 ヲ引出シテ來ルノデアル羅馬法ノ「デゼスト」ノ處處ニ海事ニ關スル規定ガアル、  
 若シ羅馬ニ立派ナ海商ガ發達シテ居ツタナラバ羅馬ニ海法ガアツタト云フコト  
 ハアラウガ、羅馬ニハ海商ガ盛デナカッタ、御存知ノ通り羅馬ハ武ヲ以テ立ツ國デ、

主トシテ陸軍ヲ以テ立テ商賣ノ方ヲ卑ミ貴族ナリ武士ナリヲ貴シデ商人ヲ卑  
 シデ居ツタカラシテ商賣ハ發達シナイ、隨テ商法ニ關スル規定モ出來ナイ、下ニ於  
 テ商業ヲヤツテ居ル者ガアツテモ全ク人民ノスル儘ニ任ジテ置イテ政府ガ餘リ手  
 ヲ出サス、稍ヤ我邦ノ封建時代ニ似テ居ル法律ガ澤山アツタモ、民ヲ治メル法律デ  
 商人間ノ爲メニ國家ガ法律ヲ拵ヘテアルコトハナカッタ、隨テ羅馬ニ商法ハナイ  
 筈デアル、ソレカラ又一方ニ於テ羅馬ハ海軍ニハ最モ不得手ナ國デアッタノデス、  
 天下ヲ取ル程ノ勢ノアル羅馬ガ最爾タル「カルセー」ジ「ラ容易ニ征服シナカッタノ  
 ハ何故カ、諸君ハ圖ニ就テ覽レバ分リマスガ伊太利ハ地中海ノ真中ニ出テ居ル  
 國デス、其真中ニ島ガアツタ時ノ天下ヲ領シテ居ツタ「カルセー」ジ「ハ亞弗利加」ノ  
 北岸今「チュニス」ト云フ所ニ在ツテ羅馬ト向ヒ合セテ其小オイ國デアアルカラ一舉  
 ニシテ様ミ潰シ得ベキ譯デアアルガ「カルセー」ジ「ハ海商ガ發達シテ海軍ト云フ  
 モノモアツタガ羅馬ノ方ニハ海ノ働ハ出來ナカッタカラ攻メアダンゴノデアアル、  
 又羅馬ニ海商ノ盛ニ爲ラヌ證據ハ「ボゾベ」ガ亞米利加ニ攻入リ時分ニ用ヒタ  
 船舶ヲ見テモ「シーダー」ガ海ヲ渡ツテ他國ニ攻入ラタ時ノ船舶ヲ見テモ又有名ナ「ア  
 商法 海法ノ沿革

シトニヨ「方埃」及ニ入「テ美人」ク「レオバ」ト「ラ」ト船ヲ「俱」ニシ「テ」リ「ヨ」ガ「ス」テ「ガ」戰  
 「ヲ」シ「タ」時「ノ」船「ヲ」見「テ」モ「分」ル「此」等「ノ」肝「腎」ヲ「時」ニ「テ」ウ「云」フ「小」サ「イ」船「ヲ」以「テ」戰「ヲ」ヤ  
 「タ」所「ヲ」觀「テ」モ「海」商「ハ」盛「デ」ナ「カ」リ「シ」コ「ト」ガ「分」ル「一」方「デ」商「賣」ヲ「卑」シ「テ」居「ク」コ「ト」ハ  
 「分」リ「他」方「デ」大「キ」ナ「船」ガ「ナ」カ「ツ」タ「コ」ト「ガ」分「リ」タ「ナ」ラ「バ」羅「馬」ニ「海」商「ガ」盛「デ」サ「イ」ユ「ト」  
 「分」分「ル」海「商」ガ「盛」デ「ナ」ラ「レ」バ「海」商「ノ」法「律」モ「立」派「ニ」拵「ヘ」テ「置」タ「管」ハ「ナ」イ「ト」云「フ」  
 「ト」モ「知」レ「ル」隨「テ」立「派」ナ「法」律「ハ」餘「所」カ「ラ」來「タ」モ「ノ」ニ「相」違「ナ」イ「ト」云「フ」推「定」ガ「下」サ  
 「レ」ル「此」際「ニ」ロ「ー」ド「海」法「ガ」小「サ」イ「ナ」ガ「ラ」全「地」中「海」ヲ「支」配「シ」テ「又」實「質」モ「良」シ「テ」  
 「羅」馬「ノ」勢「力」ヲ「以」テ「モ」如「何」ト「モ」ス「ル」コ「ト」ガ「出」來「ナ」カ「ツ」タ「カ」ラ「其」儘「ニ」採「用」シ「タ」  
 「ニ」ハ「有」名「ナ」十二「銅」表「モ」ア「リ」立「派」ナ「ロ」ド「デ」タ「ス」法「典」ヲ「拵「ヘ」テ」國「デ」ア「ル」ケ「レ」ド「モ」  
 「海」ニ「關」シ「テ」ハ「ロ」ー「ド」海「法」ニ「手」ヲ「著」ケ「ル」コ「ト」ガ「出」來「ナ」カ「ツ」タ「羅」馬「ノ」天「子」ガ「嘆」息「シ」  
 「テ」曰「ク」朕「ハ」陸「上」ヲ「支」配「シ」「ロ」ー「ド」海「法」ハ「海」ヲ「支」配「ス」「ト」是「ヲ」以「テ」觀「テ」モ「羅」馬「法」ニ  
 「ア」ル「海」法「ハ」「ロ」ー「ド」海「法」カ「ラ」出「テ」來「タ」コ「ト」ガ「分」ル「デ」ア「ラ」ウ「故」ニ「羅」馬「法」ヲ「詮」索「シ」  
 「テ」之「ヲ」「ロ」ー「ド」海「法」ト「云」フ「ハ」決「シ」テ「根」據「ナ」シ「ニ」言「フ」說「デ」ハ「ナ」イ「故」ニ「今」日「皆」  
 「ロ」ー「ド」海「法」ト「云」フ「ハ」羅「馬」法「ナ」リ「又」ハ「其」他「ノ」モ「ノ」カ「ラ」材「料」ヲ「採」リ「集

メ「テ」想「像」シ「テ」居「ル」モ「ノ」デ「ア」ル  
 此「ノ」如「ク」羅「馬」以「前」ニ「ロ」ー「ド」海「法」ガ「ア」ラ「タ」ノ「ヲ」羅「馬」ガ「承」繼「イ」ダ「所」ガ「御」存「知」ノ「通」リ  
 羅「馬」帝「國」ハ「滅」ン「デ」北「方」ノ「野」蠻「人」ガ「羅」馬「ニ」押「寄」セ「時」ノ「文」明「ヲ」ス「カ」リ「壞」シ「テ」仕  
 舞「ヲ」所「謂」「ダ」ク「エ」ー「ジ」暗「黒」時「代」ニ「爲」リ「暫」ク「歐」洲「ハ」總「テ」暗「黒」ニ「陥」ラ「タ」併「シ「テ」  
 二「世」紀「頃」カ「ラ」再「ビ」伊「太」利「ニ」商「業」ガ「勃」興「シ」始「メ」手「形」ノ「制」度「ガ」起「リ」銀「行」兩「替」ニ「關  
 ス」ル「制」度「ガ」起「リ」會「社」ノ「制」度「ガ」起「ラ」ド「ハ」諸「君」ガ「定」メ「テ」手「形」法「會」社「法」其「他」商「法  
 ノ」沿「革」デ「御」聽「キ」ニ「爲」ラ「タ」ラ「ウ」ト「思」フ「其」時「ニ」矢「張」海「商」モ「彼」ノ「ベ」ニ「ス」「フ」ロ「レ」ン「ツ」  
 「デ」テ「ア」其「他」ノ「邊」デ「勃」興「シ」テ「來」タ「ノ」デ「ア」リ「マ」ス「然」ラ「バ」此「中」世「紀」ニ「如」何「ナル」法「律  
 ガ」ア「ラ」カ  
 此「際」ニ「於」ケ「ル」法「デ」最「モ」有「名」ナ「モ」ハ「ヲ」コ「ン」ソ「ラ」ト「デ」ル「マ」ー「レ」ト「云」フ「コ「ン」ソ「ラ」  
 「ト」「デ」ル「ト」「マ」ー「レ」ト「三」字「カ」ラ「成」立「テ」譯「ス」レ「バ」海「裁」判「人」ト「云」フ「意」味「デ」ス「何」故  
 ニ「裁」判「人」カ「ト」云「フ」ニ「商」業「ガ」盛「ニ」爲「ラ」デ「慣」習「ガ」生「ジ」其「慣」習「ヲ」帳「面」ニ「書」付「ケ」テ「ア「ル」  
 際」商「人」ノ「間」ニ「争」ガ「起」ラ「テ」運「賃」ハ「半」分「ニ」ス「ベ」キ「デ」ア「ル」イ「ヤ」全「額」デ「ア「ル」ト「争」ラ「タ  
 キ」然「ラ「バ」帳「面」ヲ「開」ケ「テ」見「ヤ」ウ「ト」言「ヒ」開「ケ」テ「見」ル「ト」運「賃」ハ「全」額「ナル」モ「シ」ト「ア「ル

バ、シレゾハ金額ニシヤ果キ言ウテ争ヲ濟ム、余度ハ荷物ノ取引ハ幾日幾日ニシ  
 ナケレバカラス、併シ少シ大風ガアレバ少シハ猶豫シテモ宜キ否宜キナイトノ  
 争ガアルトキ、ソレゾハ帳面ヲ見ケウト言ウテ開ケテ見ルト猶豫ガ興ヘテアル  
 トスレバ仕方ガナイカラサウシヤウト言フ又捕獲ノ事デモ是ハ中立國ノモル  
 デアルカラ捕獲ハ出来ナイ、イヤ中立國ノモノデアアテモ船ハ敵國ノモノデア  
 カラ捕獲スル權利ガアルトノ争ガ起リソレゾハ見ヤウト言ヒ調ベテ見ルト、中  
 立國ノモノデモ船ハ敵國ノモノデアアルカラ捕獲シテ宜イト書イテアルカラ捕  
 獲スル、斯ウ云フ風ニ争ガアタトキ其書キ物ヲ見テ決スルカラ書キ物ガ全ク裁  
 判人ノ如ク爲タノデ、海ノ裁判人即チ「コンソラト、デル、マール」ト云フ名ヲ附ケ  
 タリデアアル

此法律ハ中世紀ニ出来タケレドモ今日マデモ非常ニ勢力ノアルモノデアアル、維  
 今今日之ニ反對ヲシテモ「コンソラト」ニハ斯ウアルケレドモ今日ノ時勢ハ斯ウ  
 デアルト曰ヒ正面ノ敵ニ取テ論評スル、此前ノ西米戦争ノ時ニ亞米利加ガ西班  
 牙ノ船ヲ捕獲スルトカ中立國ノ船ヲ捕獲スルト云フトキニ大分歐羅巴デ議論

ガ起リ私ガ丁度居テ時ダカラ自分モ研究シテ居ッタガ、論者ハ「コンソラト、デル、  
 マール」ニハソウデアアルケレドモ亞米利加ハソウヤ、アハイケナイ、今日ノ時代  
 ニハ違フトカ何トカ云フ之ヲ参照シテ論シテ居リマシタ、又此間ノ英吉利ト「ト  
 ランスバール」トノ戦争ノ時ニ英吉利ノ軍艦ガ獨逸ノ「ブランダスラート」其他ノ船  
 ヲ押ヘテ其レガ爲メニ英吉利ト獨逸政府ノ懸合ニ爲テ委員ヲ選ンデ色々論議  
 シラトウトウ英吉利政府カラ一定ノ金額ヲ獨逸ノ船主ニ賠償スルコトニ爲ラタ、  
 此時ニモ獨逸デモ英吉利デモ之ヲ論ズル際ニ「コンソラト、デル、マール」ニハ斯  
 ウデアアルガ今日ハ斯ウ云フコトヲシテハイケナイト云フア、「コンソラト」ノ事ヲ  
 言フテ居ッタノヲ見タ、是ニ由リタモ如何ニ重キヲ置カレテ居ルカハ分ル、數百年  
 ノ經タ今日デモ其位デアアルカラ出来タ當時ニハ非常ニ勢力ガアッタト云フコト  
 ガ猶ホ一層明カデアアル、是ガ地中海ノ要路ナル慣習ヲス、カリ集メタモノデアア  
 タノデ、最モ良ク出来タノハ捕獲デアアルカラ私ガ今例ヲ捕獲ニ取ッタノデア  
 アル

出来タカラ數百年ノ合キニ至ルマデ勢力ガアルト言ヒ、數百年ナゾト漠然ト言

三十七三百年下、四百十年トカノ數ヲ言ハナシ、數百年ト云フハ曖昧ナリト云  
 フデアアルガ實際ニ曖昧デアアルカラハ、キリシタ文字ヲ遣ハナイノデアアル、此ノ如  
 ク良タ出テ居ル書物デカラ出テ來タ時モハ、キリシタ語ハモ、キリシタ語ハ、  
 何レ積リテ書イタカ、ドウ云フ土地デ編纂シテカト云フコトモ、分ラシ居ル管デ  
 アルガ奇妙ナコトモハ、何ニモ分ラナイ、先ヅ拵ヘタ年代ニ付テハ、早イ大ハ十  
 世紀頃ニ拵ヘタト言フシ、遅イ人ハ十五世紀頃ニ拵ヘタト言フ、十一世紀ト十五  
 世紀ガアル位デカラマダ折衷ノ十二世紀トカ十三世紀十四世紀ト云フ説ガア  
 ルハ、想像シ得ラルル、極ク大相違デ十一世紀、十二世紀、十三世紀、十四世紀、十五  
 世紀ト云フ五説ガ出ラ來ル程デアアルカラ、小別ケシタナラ百位ノ説モ出ル管デ  
 アルゾ、レヲ専門ニ原語デ關セテ居ル人間デサヘモ分ラヌ程デアアルカラ、東洋人  
 タル我輩ガ十分ニ調査シ切レヌガ已ムヨリ得ヌ次第デアアル、故ニ西洋デ最モ信用  
 ヲ置カレテ居ル學者ノ説ニ從フヨリ仕方ガナイ、即チ有名才ガアルデハ、  
 説ニ從フデアアル、此人ハ「コンソラト」ヲ能ク解釋シ、殊ニ海上保險ニ付テ有名デ  
 アルガ、此人ハ十三世紀ト言ウテ居ルカラ、姑ク其レニ從フ

ソコデ年代ガ分ラトシテ何處デ拵ヘタカ、佛蘭西人ハドウシテモ佛蘭西ノ「メル  
 モーユ」デ拵ヘタト言フ、佛蘭西ノ「メルモーユ」ハ今デモ地中海デ殆ド第一ノ港  
 ト云ハルル如ク、中世紀ニ於テモ、矢張有名ナ港デアラ、佛蘭西人ガ種種ノ材料  
 カラ之ヲ佛蘭西ノモノト言ヒ、自分ガ佛蘭西人デアアルカラ、佛蘭西デ拵ヘタト云  
 フノデハ、ナイケレドモ、種種ノ材料カラドウシテモ之ヲ佛蘭西ニ歸セザルヲ得  
 スト云フ結論ヲスル、サウスルト伊太利ノ「アズニ」ト云フ立派ナ歐洲ノ海法史ヲ  
 書イタ人ガ古代ノ海法カラ中世ノ海法ヲ書ク時ニ此法ハ「ビザ」ニ出來タト、結論  
 シテ居ル、色色ナ材料ヲ集メテ「スウ」云フ理由デアアルカ、  
 決シテ自分ガ「ビザ」ニ生ラタカラサウ言フ譯デナイト斷テ居ル、又伊太利ノ「  
 「ビザ」ニ生レノ人ガ同ジヤウナコトヲ言フ「プロレンス」デ出來タト言ウテ居ル、之  
 「モ別ニ不思議デハナイ、此法モ一主權者ガア、  
 ノ分ラナイノガ無理ガナイ、國家ノ權力ヲ以テ發布シタモノデナク誰ガ拵ヘタ  
 カ分ラヌ位デカラ、其他ノ知ヒナイノモ當然デアアル、  
 「ビザ」ニ用ヒラレテ居リ、又伊太利ノ「  
 其地

ニ居ル學者ガ何處カカラ名物ヲ引出シテクニ出ルタ原本ダト云フノハ無難  
 ハナイ、丁度辨慶ノ生レタリハアツチデモアリ、コトチデモアリ、弘法大師ノ作ハア  
 ナデモアリ、コトチデモアルト云フト似テ居ル、  
 地中海一般ニ行ハレタノデ何處デ出来タト云フコトハ判然ト言ヒ兼テ爾ガ書  
 運ニ信ジラレテ居ルノハ西班牙ノ「バルセロナ」ニ於テ「カスサニヤ」語ヲ以テ書カ  
 レタト云フコトデアル、西班牙ノ都ヲ「マドリッド」ト云ヒ「バルセロナ」地中海ニ瀕  
 シタ第一ノ港デアル、西班牙ニハ人種ガニツアルカラ國ガ分列スルデアラウト  
 云フガ、其一ツハ「マドリッド」ト中心トシテ居ル人種一ツハ「バルセロナ」ト中心トシ  
 テ居ル人種デアルガ此「バルセロナ」ニテ書カレタト云フコトガ事實ニ近イ、此ノ  
 如ク出来タモノガ地中海全體ヲ支配シテ居ッタ、  
 然ラバ「歐羅巴」ノ大西洋ノ方ハドウカト云フニ「大西洋ニハ「ローレドロン」ガアツ  
 タ、是ハ「ローレ」ツ「オーレン」ト云フ三字デアアルノヲ佛蘭西語デ「ゾー」ト「オーレ  
 」ト「ゾー」ニ精ニスルカラ「ドレロシ」ト爲ルノデアアル、譯シテ「オーレロシ」ノ卷物ト謂フ、  
 日本デモ昔ハ物ヲ書クニハ卷物ヲ用ヒ虎ノ卷トカ御家ノ重寶ノ一軸トカ云ツテ

何か卷イタ物ニ書イタ如ク西洋デモ卷イタモノニ書イタカラ此書ニモ卷物ト  
 云フ名ガ存シテ居リマスガ、兎ニ角一ツノ書類ニ相違ナイ此卷物ハ「オーレロシ」ト  
 云フ處デ出来タノデアル、是ハ今日デハ少シモ有名ナ處デナイカラ大抵ノ人ハ  
 此處ヲ知ラヌデアラウ、  
 「オーレロシ」ノ卷物又ハ「オーレロシ」ノ海法ト云フモノハ何處  
 ニ出来タカラ知ラテ居ル人ハ少カラウト思フ、私自身モ是ハ何處カ知ラナカッタ  
 ケレドモ地圖ヲ覽ルトアル、極ク小サナ處デ、大西洋ニ面スル「ボルド」ト云フ酒  
 ガ出来ル處ノ近傍ニ在ル小サナ島デアアル、ソコデ海法ガ出来タ、  
 「ロード」海法ハ「大西洋」デ出来タカラ「大西洋」ノ慣習ヲ支配シタモノデアリ、マズ併  
 シ餘程實ニ於テ「コンソラト」ニ似テ居ルカラ或人ハ「オーレロシ」ノ卷物ハ「コンソ  
 ラト」ヲ真似シタトモ曰フ、  
 「オーレロシ」ノ海法ノ出来タ時期ハ割合ニ明白デアアル、或  
 人ハ「コンソラト」ヲ真似シタト曰フ、  
 或人ハ「真似セヌト曰フガ、此說ノ曲直ハ「コ  
 ンソラト」ノ出来タ時ガ何時ナリヤト云フ議論ニ關係ガアル、若シ「オーレロシ」ガ十  
 四世紀ニ出来タ、  
 「コンソラト」ガ續イテ出来タト云フコトデアレバ、後ノモノハ前  
 ノモノヲ真似シタト云フコトモ言ヘルガ然ラザレバ言ヘナイ、斯ク「コンソラト」

ノ出来タ時期ヲ定メテ上デオケレバ此論ハ決セラレヌカラ是レ今我ノ斷定  
 シ得ルコトデナカラウト思フ併シ地中海ガ大西洋ニ先チ發達シタカラ地中海  
 ノ慣習ヲ取ツタト云フコトガ事實ラシク思ハレル「ロンドンラト」ハ地中海ノ慣習ヲ  
 書イタモノデアツテ「オレロン」モ地中海ノ慣習ヲ取ツタモノト云ハバ二ツノモノ  
 ガ似テ居ルコトニ不思議ハナイ「新嘉坡」出來ル國ニ關シテ「ロンドンラト」  
 ドウシテ地中海ノ慣習ヲ取ツタカラ調ブルニ際シテ誰ガ之ヲ拵ヘタカト云フコ  
 トヲ決シタイガ之ニ付テモ爭ガアル「大西洋」デスカラ一方ハ佛蘭西一方ハ英吉  
 利ニナツテ居ル故ニ恰モ「ロンドンラト」佛蘭西ト伊太利ト西班牙デ取合ツタ如ク「オ  
 レロン」ハ佛蘭西ト英吉利ノ取合ニ爲テ居ル英吉利人ハ英吉利ノ物ダト宣フシ  
 佛蘭西人ハ佛蘭西ノ物ダト言フ現ニ英吉利ノ法學者デ最モ名高イ「スミス」ナド  
 「我我ノ王タル」リ「チャルド」ノ拵ヘタ海法ハ云云ト言ヒテ當然英吉利ノ物デア  
 ルト云フ風ニ書イテアル凡テ英吉利海法ノ沿革ヲ言フ者ハ先ヅ一番ハ「オレロ  
 ン」海法ダト説明シテ居ル又佛蘭西ニ行キマスト此海法ハ佛蘭西ノモノダト  
 言ヒ別ニ説明モシナイ極ク分リ切ツタコトト云フヤウニ書イテアル同一ノモノ

ヲ各國デ各「自國」ノモノノ様ニ言フノハ外ノ事ニジモアルコトデアアル現ニ名高  
 イ「シャーレマン」大王ハ我我ハ之ヲ佛蘭西ノ大皇帝ト見テ居ルケレドモ獨逸ニ行  
 クト之ヲ「カール」大王ト云フヲ獨逸ニ「スレナ」エライ人ガアツタト言フテ居ル良イモ  
 ノガアルト云フト兎角取合ニ爲ルガ公平ニ考ヘルト大王ハ佛蘭西ノ人デア  
 「オレロン」ノ海法ニ至テハ判斷ガ一寸六ヶ敷イ佛蘭西人ガ此法ハ主トシテ佛蘭  
 西語ニ近イ言葉デ書イテアルカラ佛蘭西ノ物ダト云フケレドモ其時分ノ英吉  
 利ノ書物ハ餘程佛蘭西語ニ近イモノデアアル何トナレバ合ノ佛蘭西ノ北西ノ方  
 ニ「ノルマン」ジ「ト」云フ所ガアリマシテ其處ノ太公ガ英吉利ニ攻メ入り「ヘスチ  
 ングス」ト云フ處デ戰争シテ打勝テ英吉利ノ王ニ爲リ封建ノ制度ヲ施イタト云  
 フヤウナコトモアリ常ニ文化ヲ佛蘭西ヨリ仰イデ居ツタカラ自然ニ佛蘭西ノ言葉  
 ヲ覺ユテ居ル其後英吉利カラ佛蘭西ヲ度「征伐」シテ「ノルマン」ジ「ト」云フ所ハ餘  
 程永イ間英吉利ノ領分デアリマシタ是レ程ダカラ英吉利ノ言葉ニハ佛蘭西ノ  
 言葉ハ非常ニ雜ツテ居ルニ相違ナイ故ニ海法ノ言葉ガ佛蘭西語ニ近イカラ海  
 法ハ佛蘭西ノモノダト云フコトハ一概國言ハナイ

英吉利人(エリチヤ)王ノ作ト言セ佛蘭西人(フレンオノール)女公ノ拵ヘタモ  
 ノダト言フガ此兩人ハ親子ニ爲ラ居ルカラ親ノ物ハ子ノ物子ノ物ハ親ノ物ト  
 アルト云ヘハソウ辱フニモ及ブマイ故ニ愛ハ五分五分ノ引分ニシテ先ブ多數  
 ノ説ナルト言葉ノ似タル點ト其他種種ノ理由ヨリシテオレロンノ海法ハ佛蘭  
 西ノモノダト云フコトニスル方ハ宜カラウトモ然レモ自然ニ佛蘭西ノ海法  
 然ラバ地中海ノ慣習ヲ如何シテコトニ引入レタカト云フニハ十字軍ノ戰爭  
 ト關聯シテ居ル彼ノ十字軍ノ戰爭ハ「マホメッド」教徒ガ亂暴ヲシタカラレテ耶蘇  
 教信者ガ怒リ國ノ如何ヲ問ハズ人民ノ如何ヲ問ハズ皆亞細亞(攻入ラテ佛蘭西  
 人ト云ハズ)獨逸人ト云ハズ英吉利人西班牙人デアラウガ伊太利人デアラウガ  
 皆及入ラタ今コソ地中海ヲ左カラ右マデ抜ケルニハ四日カ五日デヨイケレドモ  
 今ヨリ四五百年前ニハアノ大キナ海ヲ越エテ行クコトハ容易デナイ殊ニ遠隔  
 ノ國カラ行クニハ非常ニ時ガ掛ル國ニ依ルト半年掛ルコトモアリマセウ一年  
 掛ルコトモアリマセウ其間ニ港港ニ寄テ行クニ付テ其土地ヲ見慣習ヲ見國ノ  
 土産ニシヤウト云フノテ話事ヲ參考トシテ書キ置テ是ハ地中海ノ慣習ハ太西

洋ニ換做セラレタ所以デアル(海法ノ沿革)以上ハ極ク大略デアルケレドモ是ニ由ラテ南ノ地中海ト西ノ太西洋デドナ法  
 律ガ行ハレタカト云フコトガ分ルガ歐羅巴ノ北ハドウデアラウ(講師ハ此處  
 詳細ニ地理的ノ説明ヲ爲サレタルモ速記不完全ニシテ悉ササルモノ多シ)北海  
 上アルチツク「海」ハ何ノ海法カ出来タカト云フコトヲ知リタイ第一「ハ」ウ「ス  
 ビ」ノ海法デアアル「ウ」ス「ビ」ハ何處カト云フコトモ餘リ人ガ注目セヌコトデ  
 アルガ「アル」チツクノ真中ノ「コ」ト「ラ」ト云フ大キナ島ノ重モナル港デアリ  
 マス此港ハ此頃稍ヤ人ノ注目ヲ惹イタメハ數十年前ニ英吉利ト佛蘭西トノ聯  
 合軍ガ露西亞ヲ攻ムルニハ南方ニ地中海艦隊ガタリミヤ砲臺ヲ控ル北方ハ  
 「コロンスタット」ノ砲臺ヲ使ヒ其時此處ヲ根據トシテカラデアアル此地ニ海法ガ  
 編纂サレタデアアルガ斯ル邊鄙ナ所ニドウシテ斯ナル立派ナ法ガ出来タカト  
 云フニ其レニハ其時ノ商賣ノ事ヲ考ヘナクシバナラヌ昔ノ十四五世紀頃ニハ  
 西北歐洲ト亞細亞トノ間ニ商賣ガマテ今ノ露西亞ノ地ト亞細亞印度ト商賣ヲ  
 シテ居ラタ其商賣ノ範圍ガ延イテ瑞典那威ノ地ニ及ビ隨テ「アル」チツク「ハ」越

ケレバナラシメヨトニ爲ラタニバハルヲ爲シテハ流ルルキハ其中心ノ島ヲ中心トシテ寄港  
 タルノ自然ノ點ニ此點カ此處地方發達シテハ第一ニ遊藝ノ方面カ研究  
 究シテ見ルト此島ノ叛逆人ナラバ流シタ島デアル日本デモ叛逆人ト稱被トカ  
 佐渡トカニ流スト同ジト云フニトシラシドニ流シタ叛逆人ト流シタ地位人者  
 ハ多少エライ人ニ相違ナイ即チ武事ニ長ジテ居ルカラ海賊ヲキル船ノ方カモ  
 之ニ備マサレルノハ辛イカラ海賊ニ實ヲシテ無事ヲ祈リ後ニハ其保護ヲ仰キ  
 海賊ガ王トカ大將ノ如ク爲リ海上ノ平和ハ保タレルカラ海上貿易ガ盛ニ爲ル  
 途ニ十五世紀頃ニ至ラズ此邊ノ海上慣習ヲ集メテ所謂「ウヰヂビ」ノ海法ト爲ラ  
 タ斯ウ云フ地デアルカラ私ハ「スト」トシホル云フニ云フ瑞典ノ都ニ行クトキ序ニ  
 此島ニ行キ編纂地タル「ウヰヂビ」ヲ觀察シテ立派ナ町ノ跡ハアルケレドモ今日  
 ハ非常ニ衰ヘテ昔ノ面影ヲ忍バルル其處デ滞在日數ヲ延バシテ能ク土地ノ事  
 ヲ知ラ居ル人ニ會シテ種種ノ研究ヲシテ其ハ「ウヰヂビ」ノ海法ト稱被トカ  
 先ヅ編マラ大キイ法ヲ擧グレバ以上ハ三ツデズラヌズ其外ハ伊太利ニアマ  
 ル「フ」ノ法アリ獨逸ニ「ハンザ」同盟ノ法ガアル此同盟ノ法ハ法律トシテハ餘リ

有名デナイケレドモ同盟ハ有名ナルモノデアルカラ海法ノ沿革ヲ説クニハ行  
 掛上行ヲ置カケレバナラヌ封建時代ニハドウシテモ武士ノ勢力ガ強イ道路  
 ニ横行シテ町人ニ亂暴ヲ加ヘテモ構ハヌト云フコトデアルカラ商人ハドウシ  
 テモ自衛ノ策ヲ講ジナケレバナラヌソコデ中世紀ノ商家ガ相一致シテ商業  
 ヲ保護スル爲メニ同盟ヲ拵ヘタ「ハンザ」同盟ト名ケテ其勢力ヲ……四十有餘ノ  
 市名ヲ逸セリ……ニ延バシタ其盟主ハ「ハンブルグ」ニブレトメン「リューベック」等デ  
 アル此三市ノ勢力ハ今デモ認めラレテ居ルソハ此市ノ獨逸聯邦國ニ於ケル位  
 地ニテ分ル獨逸ハ聯邦制度ノ國デアアル日本ノ如ク立派ニ統一シタモノデナク  
 シテ各聯邦カラ成立ラ居ル四ツノ王國ト十八ノ公國トガアテ其中ニ大國モア  
 リ小國モアル大キナモノハ三千七百萬人人口アル普瀋西アリ又六百萬ノ人口  
 アル「バイエルン」アリ「バイエルン」事ハ日本ニハ知ラレヌキウデアリマスガ人  
 口ハ六百萬カ七百萬アリテ歳出入ガ日本ト同ジ位デアアル又塞西亞カラ日本ニ  
 送タ全權公使ガ轉ジテ「バイエルン」駐在ノ公使ニ爲ラタゴトモアル榮轉カ左邊カ  
 知ラヌガ是デ日本ト同ジ程ニ重キヲ置カレテ居ルコトガ分ルソレカラ蓋邁ノ



レカラ「ビニル」デシナル也。是ダケガ王國デアレ、十八ノ公國中最大ナル也。バトデン  
 ニシテ其處ノ娘ガ露西亞ノ皇后ゾアル、ソレゾ大キイコトガ分ル、和蘭ノ女王イ  
 婿ニ爲ラテ居ル御方ノ國モ聯邦國ノ一デアアル、此等十八公國ノ外ニ三ツノ市即チ  
 「ハンブルグ」「ブレームン」「リューベック」ガアツテ都合五十五ニ爲ル、此二十五ヲ獨逸  
 帝國ヲ成シテ居ル、而シテ各自或點ニ於テ獨立デアアル、而シテ其内制ハ大ニ獨逸  
 帝國ノ制度ト違フ、一例ヲ舉ゲルト獨逸人ハ勳章ナドガ好キデ非常ニ勿體ヲ附  
 ケテ難有カルガ、ハンブルグハ共和國デアラテ其憲法トシテ人民ガ勳章ヲ受タル  
 ヲ許サヌ、故ニ獨逸ノ宴會ニ行ラテ金モトルト勳章トテ深山見タアトデ「ハンブル  
 グ」ニ行タト奇ニ感ズル、併レ此等ノ點ニ於テハ自主獨立デアアルカラ獨逸帝國ヨ  
 リ無理ニ勳章制度ヲ押附ケルコトハ出来ヌ、ブレームンモ同一デアアル、是ハ十七  
 八萬ノ人口デアアル、リューベックモ同一デアアル、是ハ八萬人足ラズノ人口デアアル、此等ノ  
 市ハ一國デアアルカラ市ト云フテモ國ト云フテモ殆ド同一デアアル、故ニ「ハンブルグ」等  
 「ヲ持ラテ居ル」鐵道ハ市有ト云フテモ國有ト云フテモ同ジデアアル、國有鐵道論ノ盛ナ  
 トキニ或論者ハ「ハンブルグ」アタリハ總テ馬車鐵道マデモ皆國有ニ爲ラテ居ルト

云ウタガスル言ヲ聽ク者ハ餘程注意セテバナラヌ、三市共ニ聯邦國デアアルカラ  
 王國大公國ト同等デアアル、獨逸ノ皇太子或ハ皇子、普漏西ノ皇族サウ云フ御方ノ  
 乗ラテ居ル船ニハ「クリート」スフラッダ即チ軍旅ヲ樹テ並ノ人間ハ之ヲ樹テラレ  
 ナイ、然ルヲ「リューベック」等ノ市長ガ之ヲ樹テルコトガ出来ル、詰リ普漏西ノ皇族  
 ト「リューベック」ノ市長トハ同等ノ權利デアアル、皇族ニ對シテ發スル禮砲ハ此市長  
 ニ向ラテモ發シナケレバナラヌ、斯ル權力ガアルト云フハ非常ニ奇妙ニ感ズルガ、  
 是ガ「ハンザ」同盟ノ遺果デアアル、斯ウ云フ勢力ガアタ處デアアルカラ一般ノ海法ガ  
 多少出來タニ違ヒナイ、之ヲ「ハンザ」同盟ノ海法ト謂フ、然レドモ海法トシテハ左  
 程價值ガナイカラ茲ニ詳述セヌ、  
 斯ク法律ガ分立シテ居ルノヲ統一セズシテ濟ムベキカ歐羅巴ガ段段發達スル  
 程法律モ統一シテ來ル、其統一ノ時期ハ何カト云フト路易十四世前シテ路易大  
 王ト云フ人ノ治世ノ際デアアル、大王ハ「オルドナンス」ズラ「マリーシ」譯シテ海合又ハ  
 海法ト云フテモ宜シイモノヲ千六百八十一年ニ出シタ、此海合ニハ官廳ノ職權、港  
 灣沿岸ノ警察、海事契約漁船ノ事等ヲ規定シ尙ホ手續ニ關スル事モアル、公法ト

私法ノ分子ヲ合シテ居ル例ハ海軍官廳ノ職權トカ手續トカ又海灣沿岸ノ警  
 察トカハ誰ガ見テモ公法ト云フコトハ分リマセウゾレカラ海軍契約ト云フ  
 專ラ荷主ノ權利義務等ノ事デアルカラ私法ト云フコトガ分ル海法ハ之ヲ一ツ  
 ニ集メテ居リ此中ノ海軍契約ガ拔カレテ佛蘭西商法ノ大部分ヲ成シタノデア  
 ル而シテ行政ニ關スル部分ナドハ今モマダ佛蘭西ニ勢力ヲ持テ居ル二百年ヲ  
 經タル今日マデモマダ行ハレテ居ルノハ餘程面白い一體行政ニ關スル法規ノ  
 編纂ハ六ヶ敷イモノデアアル既ニ佛蘭西ノ度度行政法ノ編纂ヲシヤウト思フテモ  
 出來ナカッタ故ニ今行政法ナル法典ハナイ憲法ハドシナモノカト云ヘバ斯シ  
 モノダト示セバ分ル民法ハ斯シナモノ商法ハ少シク薄ク刑事訴訟法ハモウ少  
 シ薄ク民事訴訟法ハ少少大冊デアアル斯ク民法商法憲法ヲ手デ示シ得レバ行政  
 法ヲモ示シ度ナルノハ人情デアアル故ニ民法ヲ世間ニ率先シテヤリ商法モ率先  
 シテヤッタ佛蘭西ノ度度行政法典ヲ拵ヘヤウト思フタケレドモ失敗モ終タ今日  
 デモ失敗ニ終ルベキ行政法規ヲ今日ヨリモット法制學術ノ鈍カッタ路易大王ノ時  
 ニドウシテ能ク出來タカト云フコトハ問題デアアルガ予惟フニ其時ノ路易大王

ノ帝權ト佛蘭西ニ於ケル官制ト佛國一般ノ事情トハ之ヲ作り得セシメタト謂  
 ハナケレバナラヌ餘程大體論ニ爲ルガ斯ウ云フ大キナ法典ヲ作ルハドウシテ  
 モ帝權ノ盛ナル時デナケレバナラヌ法律ヲ拵ヘルニハ餘程衆人ノ愚見ヲ排斥  
 スル力ガアル即チ帝權ノ隆盛ト盛ナ時デナケレバ出來ルモノデナイ世間ニ率  
 先シテ民法ト商法ヲ拵ヘタ那破翁ハ專政家デアアル彼ガ商法ノ編纂ノ時ニ軍務  
 ト行政トデ忙シイニ拘ハラズ四度マデモ商法ノ會議ノ議長ト爲テ之ヲ督促シ  
 タレバコソ商法ガ出來タノデアアル佛蘭西ノ商法佛蘭西ノ民法ト云フ名ノ外ニ  
 「コード」ナボレオント云フ名デアアル位デアアルカラ其レニテモ那破翁ノ力ニ依ツテ  
 始メテ出來タコトガ分ル獨逸新民法ハドウシテ出來タカト云フト是モ帝權ノ  
 盛ナル時ニ出來タノデアアル法典編纂ノ議論ガアリシトキテビニ「沿革法ノ  
 論者」法律ト云フモノハ無間ニ上カラ抑ヘ付ケテ出來ルモノデナイ殊ニ民法  
 ナゾハ人民ガ望ミ各地ノ慣習ガ段段一致シテ來タドウシテモ法典ニ編リ所  
 實ヒタイト云フ時期ニ爲テ始メテ出來得ベキモノデアアルト云フ法典ノ編纂  
 ニ反對シタ其レヲ「テポ」ト云フハ「イデル」ルヒ「大學教授ガ暇シ法典ノ編纂」

ハ時代ノ情況ヲ考ヘテイナス。今日ノ時代ハソウ僭暴ノ人民ノ暴虐ヲ待テ居ル時デナイカラ、ドウシテモ獨逸ノ帝國ヲ統一スル爲メニハ之ヲモテ仕舞ハケレバナラヌ。獨逸ニハ羅馬法主義ノ都モアリ、日耳曼法ヲ守テ居ル處モアリ、南方ニハ「コドナボレオン」ヲ守テ居ル所モアリ、是デ州人間ノ心持ガ區區ニ爲ルカラ法律ヲ推ヘテ一ツニ纏メテバカラヌト主張シタ。色色議論モアリマシタ。佛獨戰爭ニ獨逸ガ勝テ普魯西王ウキルヘルムヲ獨逸皇帝ノ位ニ即ケ、其勢ニ乘ジテ、ビスマルク「ナゾ」ノ勢力ヲ以テシタカラ獨逸法典ハ出來タノデアル。之ヲ我邦ニ譬ヘテモオウデアアル。大實令ノ十分ニ出來タノモ天智中興ノ後朝廷ノ權ノ隆降トアル時分デアアル。眞永式目ハ北條ガ天下ヲ治メテ權力ノ盛デアッタ時ニ出來タ。日本ノ新法典ハ帝權ノ盛ナル今日ニ出來タ。人ニ依ラテ説ガ異ナルカ知ラヌガ、私ノ考デハ今日程帝權ノ盛ナルコトハ千年以來ナイ。此帝權ノ盛ナル時デアレバコソ民法ハ商法モ出來ルノデアル。法典ヲ拵ヘルニハ事實上ノ大權ヲ要スルカラ私法ト公法ヲ集メタル法典ヲ拵ヘルニハ非常ニ帝權ノ盛ナルヲ要スル。路易大王ハ大王ト云ハレド程ノエライ人デアッタカス。アノ位ノ仕事ガ出來ル

ノデアアル。故ニ學者ハ此大キナ仕事ヲ賞賛シ之ニ註釋ヲ下シタ。バラシト云フ人ガ是ハ路易大王ノシタ仕事中最モ立派ナ仕事デアル。路易大王ハ兵力ヲ以テ天下ヲ征服スルコトハ出來ナカッタケレドモ海令ヲ以テ天下ヲ風靡シタト言フ。居ル此法ハ各國ノ模範ト爲リ我日本モ間接ニ之ヲ參考シテ居ルカラ或意味ニ於テ此法ハ日本ヲ風靡シタト云フテモ宜イ。是ガ路易大王ノ權力ト法典編纂ノ關係ノアル所デアアルガ。次ニ官制ガ與ラカレト云フ。ドウ云フ譯カト云フト物ヲ纏メルニハ頭ガ一ツデナケレバナラヌガ、外務省ガ省令ヲ出サウト思フテモ大藏省ガ新ウ云フトカ農商務省ガ新ウ云フトカ左親右顧ヲ要スルトキハ物ガ纏マラナイ。海事ニ關スル事デモ同ジコト。是ハ軍艦ノ事デカ。海軍デアル是ハ商船デアルカ。通信省ノ管船局デアルト云ストキニハ其間ヲ纏メルコトガ出來ナイ場合モアリ。出來テモグズノ「ユル」レガ頭ガ「グズ」思フ様キヤ。宜イト云フコトニ爲レバ早イ。幸ニ路易大王ノ時ニハ海上ノ權ヲ一手ニ握ル者ガテ「ユル」レガズレバ「アミラール」ト云フ。アノ時代ニハ海事ヲ餘リ分業シテ居ナイ。海事ガ陸事ニ較ベ



ウトシタ時代マデ行タノデア、歐羅巴ノ海上權力ハ、ロシヅスガ、亞米利加ヲ  
 發見シテ以來種種ニ變遷シテ居ル、彼ノ發見後ハ、多クノ領分ガ西班牙ノモノデ  
 ア、タ、之ニ對抗シテ葡萄牙ガ深山ノ領分ヲ取、テ居、タ、此ニ國ガ衰ヘテカラ和蘭  
 ニ海權ガ移、テ來、タ、而シテ英吉利モ之ヲ特ツニ至、ツ、タ、カラ、爭ガ起ル、和蘭ガ勝ツカ  
 英吉利ガ勝ツカト云フロトニ爲、タ、ダ、ドウシテモ和蘭ノ方ガ上デ船ガ深山アル  
 カラ、タ、ロムニルノヤウナ壓制家ガ非常ナ判斷ヲ爲シ非常ナ干渉主義、非常ナ保  
 衛主義ヲ採リ自ラ王ノ如キ干渉、王ノ如キ專權ヲ以テ内外ニ當リ條例ヲ出シテ  
 英吉利ノ船デナケレバ英國ヘ物ガ運ベナイヤウニシタ、和蘭ノ船ガ英吉利ニ這  
 入ルノヲ防ガントシタガ、和蘭船入ルベカラスト云ウテハ餘リ直接ニ爲ルカラ英  
 吉利ニ來ル船ハ自國ノ產物ヲ乗セテ來ナケレバナラヌ、他國ノ產物ヲ乗セテ來  
 ルコトハナラヌト云フタ、和蘭ハ極ク小ナイ國デ獨逸カラ三時間モアレバ海ニ  
 出テ仕舞フヤウナ小國デス、元ハモウ少シ大キカ、タ、ケレドモ、ソレニシテモ中  
 產物ノアル國デナイカラ外國ノ產物ヲ諸方ニ運ビ海國運輸國ト爲、テ居、タ、ン  
 ガ、所デ自分ノ國ニ出來タモノヲ乗セテバ英國ニ這入ルコトガ出來スト云フコ

トニ爲レバ全ク英吉利ニ行ケナイト云フコトト同シコトニ爲ル、ソレデ和蘭ガ  
 船ヲ英吉利ガ向ホ海權ヲ主張スル爲メニ英吉利ノグルリノ海ハ皆英吉利ノモ  
 ノダ、荷モ英吉利ノ領分ニ這入、テ來ルモノハ一頭ヲ下ゲ旗ヲ下シテ這入レト  
 云フコトヲ主張シ英吉利ノ一ツノ幟ト他ノ幟ノ間ニ一直線ヲ引イテ其レヲ「ロ  
 ーヤルチヤム」ニア王ノ部屋トシ之ニ這入、テ來ル者ハ皆頭ヲ下ゲト云フ風ニ  
 ヤ、タ、他ノ原因モア、タ、ガ其レモ幾分カノ原因ト爲、テ和蘭ノ國際法ノ始祖タル  
 「グロシニース」ト云フ者ガ有名ナ戰時ト平時ノ法則ノヤウナモノヲ書キ、之ガ後  
 來ノ國際法ノ元ト爲、タ、ト云フ位デス、此「グロシニース」ト云フ人ガ又自由海ト云  
 フモノヲ著シテ海ハ共有ノ物デア、ル、英吉利ガ私有シテ居ルヤウダガ是ハ共有  
 デアルカラ英吉利ニ行、テ旗ヲ下サチバナラヌト云フコトハナイト云フ説ヲ出  
 シタ、ソコデ英吉利ノ王ガ大變怒、テウウ云フ不埒ナコトヲ言フ者ヲ罰セ、ト、蘭  
 王ニ申送リ、又是ハ英吉利ノモイニ相違ナイカラ此ニ來ル船ニ命令ヲシテ旗ヲ  
 下サシメ、之ニ付、テ、ル、デ、ン、ト云フ學者ガ閉鎖海ヲ著シタ「自由海ニ對シタメ  
 「閉鎖海」ト云フモノデア、ル、和蘭ノ「グロシニース」ハ海ハ何處デモ自由デア、ル、ト言フ

「英吉利」セルデン「海」ハ「領」レ得ル「ト」云フ「喧嘩」デア「道徳」ト事實ト  
 「カ」ラ觀レバ「ドウ」シ「モ」自由ナ「モ」ズ「ダ」ト云フ「方」宜イ「シ」デ「ズ」ヨ「シ」ユ「フ」方ガ人  
 「ニ」尊榮サレ「今」ハ「ダ」ロシ「ユ」ス「ガ」勝「タ」ト云フコト「ニ」爲「ル」マ「シ」ガ「實」當時ニ英吉利  
 ノ王ガ怒「テ」和蘭政府ニ懸合「セ」海ハ閉鎖シ「タ」モノ「デ」アル「英吉利」シ「テ」ハ「英吉  
 利」ノ「モ」ン「デ」アル「ニ」自由「ダ」ト云フ「ノ」ハ「怪シカ」ラ「ス」カ「ラ」其者「ヲ」罰「ス」ル「カ」戰爭「ヲ」出  
 ル「カ」何レ「カ」ニシ「ロ」ト云ウ「テ」懸合「ウ」タ「ト」云フコト「デ」アリ「マス」  
 數百年「ヲ」ウ「云」フ「ヤ」ウ「ナ」壓制主義ナリ保護政策「ヲ」取「テ」居「タ」ケ「レ」ド「モ」千八百四  
 十八年頃ニ自由主義ノ經濟學者ノ議論ガ盛ニ爲リ貿易ハ或時代マ「デ」ハ保護シ  
 ナケ「レ」バ「ナ」ラ「ス」ガ「一」定ノ程度マ「デ」進「ン」ダ「ノ」ヲ保護「ス」レ「バ」却「テ」進歩「ヲ」妨「グ」ル「ト」  
 曰「ヒ」千八百五十年ニ今マ「デ」ノ干涉主義「ヲ」全廢シ「テ」仕舞「フ」今度ハ極端ナ自由主  
 義ニ爲「ラ」タ「千八百五十年」ニ海事行政規則「ヲ」出シ續「イ」テ千八百五十四年ニ「マ」ア「チ」  
 「ン」ト「シ」ラ「ビ」シ「ダ」ア「ク」ト「ト」云フ「モ」ノ「ヲ」出シ後ニ色色ノ海事ニ關スル法律「ヲ」出シ「其  
 レ」ガ世界ニ餘程參考ト爲「ラ」タ「七八年前」マ「デ」日本ニテ海法ノ講義「シ」テ「居」タ「人」ガ  
 何レ「モ」之「ヲ」標準トシ「テ」居「タ」併シ「法典」ガ發布「ウ」レ「タ」國「デ」ウ「ヘ」モ「度」度法律ノ改正

トカ増補ガ必要「デ」アル「カ」ラ況「ヤ」法典主義「ヲ」取「テ」英吉利「ニ」ハ其後ニ變遷「シ」  
 ル「ハ」無論ナコト「デ」年年種種ノ單行法「ガ」出ル餘「リ」澤山出來「タ」ガ「ラ」一「遍」全部「ヲ」編  
 製シ直スコト「ニ」シ「即」チ千八百九十四年ノ商船條例「ガ」出來「タ」譯「テ」アル「前」ニ「ハ」五  
 百餘條「デ」ア「タ」ノ「ヲ」二百餘條増シ「テ」七百餘條トシ「テ」今日ノ現行法「デ」アル  
 此現行法ハ先「ツ」十四位ニ分「レ」テ居「テ」船舶ノ登記ノコト、船長海員ノコト、船主  
 責任、漁船、海上ノ難船難破其「レ」ニ關スル救助海事ノ資金等ノコト、ガ「ル」海事  
 資金ト云フ「ノ」ハ貧乏ニ爲「ラ」タ海員ヲ救助「ス」ル爲「メ」ニ豫メ金「ヲ」貯メ「テ」置「ク」コト「デ」  
 アル、ソ「レ」カラ水先燈臺訴訟ノ手續「ヲ」向「ホ」附則ト云フ「ヤ」ウ「ナ」モノ「モ」アル、此法  
 ノ主任官廳ハ「ボ」ール「ド」ボ「ン」ト「レ」ド「ト」云「フ」日本ノ農商務省ノ商工局ト遞信  
 省ノ鐵道局及ビ管船局「ヲ」合シ「テ」ヤウ「カ」一「ツ」ノ官衙「デ」アル、餘程大「キ」ナ「モ」ノ「デ」ア  
 「ラ」今ノ内務大臣ノ「リ」オ「ウ」ト「ハ」私ノ居ル時分「ニ」ハ「茲」ニ院長「ヲ」シ「テ」居「ラ」タ、其位「ハ」モ  
 ノ「デ」アル「カ」ラ或ハ譯「テ」商務省ト云フ「人」モ「アル」ガ法律上省「デ」ナイ「カ」ラ商務局  
 ト云フ「人」モ「アル」ケ「レ」ド「モ」局「デ」ハ小「キ」過「ギ」ル「カ」ラ先「ヅ」會計検査院「ト」カ大審院ト  
 カ云フ「院」ヲ取「テ」商務院ト譯「テ」置「タ」其商務院ガ商船條例「ヲ」支配「シ」テ「行」ク

此條例ノ中ニハ海軍ニ關スル點モアリ内務ニ關スル點モアリテ殊ニ英吉利總  
 タノ官衙ニ跨リテ條例ト云フヲ宜シイ重モニ海事ノ行政ニ關スル規則デアリカ  
 ラ直接ニハ日本ノ海商法ノ參考ニヤナラヌケレドモ間接ニハ非常ニ參考ト爲  
 テ居ル我我ハ之ヲ海事ノ法典ト云ヒタイガ英吉利人ハドウ云フモノカ法典ト  
 云ハレルコトヲ嫌フ英吉利人ハ非法典國ダト云フコトヲ大變ニ自慢シ佛蘭西  
 ナドハ法典ヲ作ラタカラ法ヲ進マナイ英吉利ハ非法典カラ進ンデ居ル故ニ何  
 時マデモ非法典ヲ行カチヤナラヌト言フ故ニ之ヲモ法典デナイト言ヒタガ  
 若シ我我外人カラ英吉利人ニ向ヒ是ハ立派ナ法典デアル流石ハ海國ダカラ海  
 法典ガ出來タト云フト之ヲ法典ト云ハレルト困ル是ハ決シテ法典デナク唯今  
 マデノ法律ヲ集メタニ過ギナイ法典ト云フモノハ從來ノ法律ヲ改メ慣習ヲ改  
 メルノガ法典デアルガ商船條例ハ決シテ英吉利ノ法律ヲモ慣習ヲモ改ムルモ  
 ノデナイト言ウヲ答辯スル私ノ考ヘハ法典ト云フモノハ別ニ法律慣習ヲ悉ク  
 改メナケレバナラヌモノデナイ現ニ日本ノ法典ヲ編纂シ法典ト既觸スル法規  
 小廢シタガ之ニ既觸シナイ以上ハ布告モ規則モ總テ向ホ效力ガアルトシ慣習

ノ如キハ決シテ法典ノ爲メニ妨ゲラレハシナイ殊ニ商慣習ノ如キ民法ニ先  
 行ハルル程デアルカラ英吉利人ハ此條例ガ法律慣習ヲ改メルモノデナイカラ  
 法典デナイト云フコトハ理窟ニ適ハス抑モ法典ト云フモノハ立法者ガ暫クノ  
 間變リテウモノナイト思フ原則ヲ集メテ一冊ノ書ニ示シ見ル人ノ便宜ヲ圖リシ  
 ニ過ギナイ故ニ法典ガアツタカラト云フテモナク到底永久不變ニ法  
 典ガ出來ルモノデモナイカラ此位ノ原則ハ十年カ二十年持ツデアラウト思フ  
 大キナ原則ヲ集ムレバ法典デアル商法ガ出來タ翌年ニ改正ガ出來テ來ルヤウ  
 ナコトガアツタモ其商法ハ法典タル性質ヲ失ハナイヤウナモノデアル故ニ英吉  
 利ノ商船條例デモ法典ト云ウヲ宜カラウト思フ獨逸人ハ佛蘭西人ガ之ヲ法典  
 ナリト稱シテ賞メテヤラウト云フノニ英人ハイヤガテ居ルハ尙妙ダ一體ニ非  
 法典國タル英吉利ガ海商而モ外人ノ六ヶ敷イト信ズル海上行政ノ法典ヲ未下  
 ニ先ツテヤラウト云フコトハ我我ノ注目スル點デアラウ  
 編纂ハドウカト云フニ古ク言ヘバ千二百年頃ニリムトベクノ規則モ出來タ  
 千三四百年ニハソノルズル其他ノ規則モ出來タガ先ツ編纂テ出來タ  
 一八八

十七年ノ普魯西ノ法テアルカドレトモ最良本日本ニ其餘ヲ參考ニ爲リマセシメ見ヲ  
 註テ千八百六十二年ノ商法ノ一部分ニ爲ル海商法觀イテ千八百九十七年ノ商  
 法即チ現行法タル商法ノ一部分ト爲ラ居ル海商法ヲ見ル位ノコトデアアル獨逸  
 ノ海法ハ到底英吉利ニ及バナイ實質分到底及バナイノミナラズ理論デモ及ハ  
 ナイ私ハ隨分獨逸ノ學者ニモ會ヒ色色ヲ獨逸ノ法律書ヲ研究シ又海商ニ最モ  
 盛ナル「ハンブルグ」チリ「ブレイ」ニ行キ海事審問所ノ海事ニ關スル裁判  
 ヲモ傍聽シタガ逆モ英國ニ及バナイ裁判長ニ會ウラドウ云フ譯デアア云フ  
 裁判ヲシタカド問ヒ段段進ンデ問ウチ行クトモウ其處マナシカ言ヘナイ其上  
 ハ英吉利デ研究シテ與レ此手續ハ畢竟英吉利ノモノヲ寫シ取タニ過ヤナイト  
 言ウテ斷ハル點ガ多イ然ラバ獨逸ハ參考ヨリ全ク棄ツベキカト云フニ然ラズ  
 獨逸ガ色色ナ點ニ進歩シテ行クコトハ蓋シク例ヘバ英吉利デハ餘リ衛生ノ事  
 ナドハ言ヒマセメカ獨逸デハ餘程衛生ノ事ニ重キヲ置キ亞弗利加ノ殖民地南  
 洋ノ殖民地ヲ取ラカラマラリヤ點ガ流行スルノデナウ云フ處ニ行ク船ニ其  
 ウ云フ事ヲ研究シタ醫師ヲ乘セチバナラマト言ヒ又病源ヲ研究シテ居ル

獨逸人ガイツデモ英國ト比較シ船ノ數ヲ行クバ英吉利ニ及バナイ世界ノ船ガ  
 二千四百萬噸アル中デ千二百萬噸ハ英吉利ノ船デアアルカハ是ハ到底カナハナ  
 イト言フチ居ル船ノ數ハ英人ノ誇ル所デアアル我我ガ海法會議デ議論シ英人ト大  
 陸人ト説ヲ異ニシ獨逸人佛蘭西人白耳蘭人和蘭人等ガ我我ノ法律ガ殆ド一致  
 シテ居ルチウ一致シテ居ルノダカラ今英吉利ダケガ承知シテ與レレバソレデ天  
 下ガ一致シタト云ヘル九箇國ノ中八箇國マデ一致シテ居ルノニ英吉利ガ違フ  
 ト天下ガ一致シタト云ヘナイカラ此處マデ一致シテ居ルカラドウカ英吉利モ  
 屢々折ラテ吳レト曰フ英吉利ノ人ガ答ヘテナウ云フ論法デハ困ル今日海法會  
 議ヲヤルノハ船ノ利益ノ爲メデハナイカ船ノ利益ナラ船ノ多少ヲ以テ論ジナ  
 ケレバナラヌ英吉利ノ一國ヲ以テ世界ノ總テガ集ラテ程少船ヲ持テ居ルノダ  
 アルカラ斯ウ云フ議論ニハ第一ニ船數ヲ念頭ニ置イテ實ヒ度イト繰返ヌ獨逸  
 ガ新進ノ銳氣ガアツテモ此點ダケハ及バヌノデ他人物ヲ以テ輕ラウト思フチ力  
 メテ居ル面シテ今現ニ海事ニ付テ英吉利ヨリ優ルモノヲ三ツ程持ヘテ一ニ世  
 界第一ノ航海會社ノ事デアアル第一ノ航海會社ハ何處カト云フト諸君ガ英吉利



大御考 海法ヲ知リテモスガ、獨逸ニ第一ノ航海會社ガアルヲ即チハシテ、  
 大アリカ會社ガ五十二萬噸ノ船ヲ持テ世界第一ノ會社デアリシ、第二ガ北獨  
 逸ヨリト會社ヲ失張獨逸ノ會社デアル之ガ四十八萬噸ヲ持テ居ル、第三番  
 至テ始メテ英吉利ノ會社ガ來ル、四番モ英吉利ノ會社デアル、五番ノ會社ニ至  
 テ我ノ能ク知ラ居ル、ビトー會社ガ來リ、ソレガ佛蘭西ノモトシテ、マ  
 一ムカ來リ、終ニ日本ノ郵船會社ガ八番位ニ爲ル、サウ云ハ居ルカラ  
 獨逸人ガ勝テ英吉利ガヤカセシク言フケレドモ世界ノ航海會社ハ一  
 番ハ獨逸  
 界ナイカ、二番モ獨逸デハナイカト云ウヲ居ル、ソレ又速力ノ點ニ於テモ世  
 界デ一番早イ船ハ獨逸デアル、ドイッラシド號ガ二十三海里ヲ走ラテ五日何  
 時間ヲ大西洋ヲ橫斷シタノガ世界第一デアル、此船ハ大キナ船デア  
 氣ヲ引立テテ賭ヲシタ者ガ多カッタガ結果ハ獨逸號ノ勝テ五日ト極ク僅ノ時間  
 安全ノ點ナドデモ獨逸ガ改良ヲシヤクト思ウヲ船ニ新ナ線ヲ引ク  
 事トナリ

出シタ、船ハ諸君モ知ラ居ル通リ物ヲ澤山積ムハ沈シテ仕舞ヒ餘リ少シ積ム  
 輕イカラ覆ヘリ易イ、故ニ孰レシニテモ一定ノ程度マデ物ヲ積マナケレバナラ  
 船ノ腹ヲ見レバ筋ガアルガ、アノ筋ヨリ餘計ニ荷物ヲ積ムコトハ出來ナイ若  
 シアノ筋ガ見エナカッタラ其レガ餘計積ミ過シテ居ルカラ警察官或ハ行政官  
 ガ行ツテ叱ツテモ宜イ此點ハ何處ノ國デモ船舶ノ安全ノ爲メニ行政法規ニ極メテ  
 アル、英吉利ハ千八百七十二年ノ法律デ之ヲ極メ千八百九十年ニ改正シテ法  
 律ヲ出シタ、積ミ過シテ危ナイト等シク浮キ過キテモ危ナ、船ノ底ハ細ク爲ラ  
 居ラ陸地ニ置イタラ船ハ引線同ルニ相違ナイソレガ水ノ中ニ浮イタ居レハ  
 ンアノ形デ居ルノデアル、其レハ底ニ重味ガアルカラデアル、底モ重味ガアル  
 ン程確ニ爲ル、恰モ張子ノ人形ト同シデ、下宜重イ程能ク坐ハルト同シコト  
 ス所ガ石炭デモ積マウト云フニ成ル、空ニシテ置イタ多ク積ミ度ハ四萬  
 噸ノ船ヲスツカサ空ニシテ行タナラバ一萬噸ノ石炭ヲ持テ返レル、ソレヲ水ホナ  
 石ナリ入レテ置イタ底ニ二千噸ヲ入レト云フト八千噸ノ石炭ヲ持テ歸ラ  
 レナイヤウニ爲ルカラ人情トシテ輕ク同ル、サウスルト船ガ危ナルカラ上ニ

筋ヲ引カナケレバナラズ必要ガアルト同ジク下ニモ引カナケレバ大變モト云  
 フ考ヲ起シテ來ルソレヲ獨逸ノ「ハンブルグ」アリテ其會社ガ始メテ實行シテソ  
 ロデ獨逸ノ皇帝ガ大變ニ之ヲ賞讃シテ電報ヲ賞メタリ。又獨逸ノ天子ガ非常ニ  
 海事ニ熱心デアル、其レハ海軍擴張案ニ御盡力ニ爲マタ工合ニモ分ル、又御自  
 分ニ遊船ヲ拵ヘテ常ニ御乘リニナリ就テ爲サレドモ分ル、又進水式ヲ亞米  
 利加ニスルニ付テ王弟「ヘンリー」親王ヲ遣シタト云フコトゾモ分ル、又獨逸ノ  
 將來ハ海上ニ在リト言ハレタコトゾモ分ル、斯ク御獎勵又爲サレカラ會社ノ方  
 デモ此筋ヲ引キマシタト云フコトヲ奏聞シタノデアリ、所ニ皇帝ヨリシテハ朕  
 ハ獨逸ノ船ガ世界ニ先ブテ斯ル事ヲ爲シタ事ヲ賞メト云フ御鄭重ナ御返電ガ  
 アタリ、斯ク色色ナ點ニ熱心シテ居ルカラ實際ノ改良上見ルベキ地ナガアラウト  
 思フカラ獨逸ノ海事隨テ海法ハ將來ニハ海軍メカネザルモノト爲ルト思フ言  
 以上ヲ總ズルニ海法ハ地中海カラ始リテ大西洋及「バルチック」海ニ及シテ  
 アル、一言ニ言ヘバ南カラ起リ西ニ廻リテ北ノ北海ナルヲシテ海ニ至リ而シテ中  
 央集權ノ路易大王ニ依テ法典ニ大成セラレタノデアリ、而シテ現在ノ行政規則

トシテ最モ整備シテ居ルノハ英吉利ノ千八百九十四年ノ法律デアリ比較的ニ  
 新良ナルハ獨逸商法ニシテ又改良ニ卒先シテヤツテ居ルノモ獨逸ト云フコトゾ  
 アルカラ此等ヲ考ヘテ多少ノ御參考ニ爲ラウト思フテ少シク述ベマシタ

法人ハ犯罪ヲ爲スコト能ハス  
Societas delinquere non potest.

（以下は非常に淡く、ほとんど不可読な文字列が並んでいる）

被告ノ死亡ト附帯私訴トノ關係、私訴ノミノ控訴

場合、裁判所ニ於ケル用語及ヒ本件不再理ノ原則

ニ關スル推問イテ被告人ノ誤りニ由リテ被告ノ死亡ト

關シ、被告ノ死亡ト附帯私訴トノ關係、私訴ノミノ控訴

場合、裁判所ニ於ケル用語及ヒ本件不再理ノ原則

ニ關スル推問イテ被告人ノ誤りニ由リテ被告ノ死亡ト

關シ、被告ノ死亡ト附帯私訴トノ關係、私訴ノミノ控訴

場合、裁判所ニ於ケル用語及ヒ本件不再理ノ原則

ニ關スル推問イテ被告人ノ誤りニ由リテ被告ノ死亡ト

關シ、被告ノ死亡ト附帯私訴トノ關係、私訴ノミノ控訴

場合、裁判所ニ於ケル用語及ヒ本件不再理ノ原則

ニ關スル推問イテ被告人ノ誤りニ由リテ被告ノ死亡ト

關シ、被告ノ死亡ト附帯私訴トノ關係、私訴ノミノ控訴

場合、裁判所ニ於ケル用語及ヒ本件不再理ノ原則

生徒以私訴提起ノ條件トシテ公訴ノ既ニ起スルモ口頭ヲ要スルモ公訴ノアルモノハ私訴繼續ノ條件ニ非ス上僞ニ公訴ニ付テ審判セザルコトイハレタリ  
 講師 然ラハ公訴ニ付キ審判セザルモ然レドモ審判セザルコトハ私訴ノ繼續スル理由如何ニ依ルベシ

生徒 刑事訴訟法第二百二十五條ニ依レハ同法第二百二十四條ノ場合即ち被告人ニ無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ爲シタル場合等ニ於テモ仍ホ私訴ニ付キ判決ヲ爲スヘキモノナルニ徴スレバ本問ノ場合於テモ亦私訴ニ付キ裁判スルコトヲ妨ケザルヘシ

講師 本問ノ場合ハ刑事訴訟法第二百二十五條ノ場合トシテ全ク異ナレテ即チ同條ノ場合ハ少クトモ公訴ニ付キ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於ケル私訴ノ裁判ニ關スル規定ナリ此場合ト被告ノ死亡シ公訴ニ付テ何等ノ裁判ヲ爲サザル場合ト同一ニ取扱フコトヲ得ヌ要スルニ本問ノ場合ハ私訴ヲ却下スルコト外ナカレハシ  
 生徒 却下スル位ナラハ私訴ノ裁判ヲ爲スモノナルニ非スヤ

講師 否却下ノ裁判ト本案ヲ裁判トハ雲泥ノ差アリ凡ソ私訴ハ民事裁判所ニ於テ裁判スルヲ本則トスルモ唯公訴ノ繫屬スル場合ニ限り便宜上刑事裁判所ニ提起スルコトヲ得ルニミ故ニ若シ刑事裁判所ニ於テ公訴ニ付キ審理裁判スルノ必要ナキニ至ラハ私訴モ亦刑事裁判所ヲ離脱スルモ事ノ常道ニ復歸スルモノト謂フヘキニ非サルカ  
 講師 此問題ト少シク異ナリテ今第一審裁判所ニ於テハ公訴私訴共ニ裁判ヲ爲シ被告人カ公訴ニ付キ控訴中死亡シタルトキハ未タ確定セザル私訴ニ付テハ如何ニ處分スヘキカ  
 生徒 控訴裁判所ニ於テハ被告人ノ相續人ヲシテ私訴ヲ承繼セシメ以テ裁判ヲ爲サザルヘカラス何トナレハ控訴裁判所ニ於テハ一タビ受理シタル訴訟ハ之ヲ裁判スルノ義務アリ  
 講師 而シテ私訴ハ此場合於テ第一審ニ於ケルト異ナリテ獨立シテ控訴ヲ爲シ得ヘキモノナルヲ以テ主従ノ關係ヲ脱シタルモノナレハナリ  
 講師 然リ次ニ私訴ニ付テハ獨立ノ控訴ヲ爲シタル場合ニ於テ被告人ヨリ



得ル者國籍喪失ニ由リ官刑ミタメ罰金ハ其田舎人ニ據ル其性實ハ私法上以損害  
 生徒罰金ナル以上性刑罰カ刑ハ一身ニ止マルモノナルヲ以テ不可ナリ  
 講師 然リ唯此場合ニ於ケル罰金係名ハ刑罰ナレ其性實ハ私法上以損害  
 賠償ノ性質ヲ有ス何チナレハ若シ稅務官ニ對シ其罰金ヲ納付スルトキハ犯  
 罪人トシテ取扱フモノニ非ナレハ才リ故ニ相續人ニ對シテモ執行スルコト  
 得トシテ議論アルヲ以テ官刑ニ據ル罰金ニ對シ日本ニ當リ日本刑ニ據ル一類  
 講師 或被告事件ニ付キ檢事ハ強盜ヲ以テ起訴セザル裁判所ハ強盜ノ事實ヲ  
 否認スルノミナラス無罪ヲ言渡ヲ爲シタリ右同一事實ニ對シ檢事ハ後ニ竊  
 盜トシテ起訴スルコトヲ得ルヤ  
 生徒 一事不再理ノ適用ニ依リ起訴スルコトヲ得ス強盜ノ罪ヲ對シテハモ  
 講師 然ラハ前ニ過失殺ノ訴ヲ爲シ無罪ノ判決確定シタル後ニ檢事ハ之ヲ謀  
 殺トシテ再ヒ訴ヲ提起スルコトヲ得ルヤ  
 生徒 同一ナリ何トナレハ裁判所ハ檢事ノ起訴シタル罪名ニ拘束ナラズモ  
 非ニ非スシテ自由ニ審理スルコトヲ得ルモノナカ故ニ縱令其後如何ニ罪名

ノ變更アルモ再ヒ公訴スルコトヲ得ナルナリ  
 講師 然リ我刑事訴訟法ニ於テハ右ノ如ク解スルヲ以テ妥當ナリト信ス

Copyrighted material



時効ノ經過ハ必ス同一人ニ之ヲ完結スルヲ要キス故人ノ占有ヲ合シ必要ナル期限ニ滿ツルヲ以テ是レリトモ唯占有ヲ承繼セシ者カ之ヲ受クルニ當リ一般名義ヲ以テセシト各箇名義ヲ以テセシトニ從ヒテ差違アルノミ甲ノ場合即チ一般名義ノ相續者又ハ寄贈ヲ受ケタル者ニ在リテハ占有ノ承繼者ハ占有ノ創造者カ身格ヲ繼テ以テ時効ノ經過ハ一ニ開始ノ狀態ヲ逐ヒ創造者ニシテ正當理由及ヒ善意ノ條件ヲ充テテリシトキハ承繼者ハ善意ナルニモ關セス時効ニ達スルヲ得ス若シ甲者ニシテ善意ナリシトキハ乙者ハ惡意ナルモ違ニ時効ヲ得ルモノトス之ヲ名ケテ占有ノ繼續ト謂フ第二ノ場合即チ各箇名義ノ相續者遺贈ヲ受ケシ者買受者等ニ於テハ其人格全ク占有ノ創造者ヨリ獨立分離セラルヲ以テ各別二箇ノ占有ヲ爲シ甲者ニシテ善意ナリシモ乙者ニシテ惡意ナルトキハ時効ヲ繼續セス之ニ反シ甲者ハ惡意ナリシモ乙者ニシテ善意ナルトキハ時効ニ導クヘキ占有ヲ始ムルヲ得甲乙兩者共ニ善意ナルトキハ兩者ノ占有ヲ合スルモノニシテ之ヲ占有ノ集合ト名ケ

(四) 物件ノ時効ヲ受クヘキコト時効ハ元來資產ト爲ルヘキ一切ノ物件ニ適

應セラル然レトモ或形勢ニ因リ時効ハ其效力ヲ生スルコト能ハス(1)州縣即チ伊太利以外ノ土地ハ當初ハ市民法ニ因リ時効ヲ認メス(2)盜取シタル動産及ヒ暴力ヲ以テ占領シタル不動産ハ其占有ニ固有ナル瑕疵ニ因リ時効ヲ生セス此等ノ場合ヲ規定スル十二銅版法及ヒ其他ノ法律ハ正當理由及ヒ善意ナキ盜賊及ヒ強奪者ニ對シテ制限ヲ設ケタルニ非ス爾後ノ取得者ニ對シテ時効ヲ得セシメタルニ在リテ盜取シタル動産及ヒ強奪シタル土地ニ固著セル瑕疵ハ此等物件ノ一旦所有主ノ手中ニ復歸スルニ非サレハ掃清セラレザルモノトス(3)所有主ノ法律上ノ條件ニ依ルモノニシテ後見人又ハ管財人ヲ附セラレタル幼者ノ財産ハ本來讓與スヘカラザルモノニシテ隨テ時効ニ因リ得取セラルルコトナシ

上説セル四箇ノ條件ニシテ完備スルトキハ時効ニ因リ所有權ヲ得取スルモノトス物件ノ讓受者ハ之ヲ讓與シタル所有主カ有セシ狀態ニ於テ之ヲ得取スルヲ以テ或負擔ノ存セシトキハ之ヲ輕減スルコトヲ得ス

(B) 長期時効(Per scriptio longi temporis)



市民法<sup>レ</sup>時效<sup>(Usucapio)</sup>ハ市民法ノ所有權ヲ授與スルモノニシテ隨テ不動産ノ一  
種重要ナル州縣土地ニ適用スルヲ得又商事權ナキ非公民ニ利用セシムルヲ  
得ス隨テ其範圍ハ狹隘ナリシカ<sup>レ</sup>ブレドール<sup>レ</sup>法官ハ長期時效ヲ制シ其缺  
點ヲ補充シ正當理由善意ヲ以テ一定年間州縣土地ヲ占有シタル者及セ外國人  
ニシテ動産伊太利土地及ヒ州縣土地ヲ同一條件ニ從ヒ占有シタル者ヲ保護セ  
リ其條件效用ハ全ク時效ニ等シキモ唯年限ハ遙ニ長ク動産不動産ヲ分タ  
ス占有者及ヒ所有主ニシテ同州ニ住居スルトキハ十年トシ密別州ニ住居スル  
トキハ二十年ト爲シタリ

長期時效ニ在リテハ<sup>レ</sup>Prescriptio<sup>ナル</sup>字ヲ用ヒタルハ訴訟方法ヨリ起因セシメ  
ニシテ羅馬ノ法官ハ訴訟ヲ以テ裁判官ニ付スルノ前其要旨ヲ撮取シ之ヲ方式  
ナルFormula<sup>紙上ニ</sup>列記セルガ長期時效ハ一ノ據辯手段ニシテ之ヲ方式ノ頭首  
ニ記入セサルヘカラサル規則ナリキ故ニ<sup>レ</sup>Scriptio<sup>ナル</sup>字ハ時效ノ意味ニ非ス  
Pre<sup>ト</sup>前ト云フ義ニシテ<sup>レ</sup>Scriptio<sup>ト</sup>以テ記書スルヲ義ナルモ法學上採用セラレ  
タ時效ヲ指スニ終リタリ

法官ノ長期時效ヲ創設セシムル市民法ヲ變更スル目的ニ非スシテ市民法ハ不  
完全ナル點ヲ補充スルニ在リ是ヲ以テ兩者共ニ存在シテ併用セラレシカ年代  
ヲ經ルニ隨ヒ兩者ヲ區別シタル理由漸時消滅シ<sup>レ</sup>Justinian<sup>帝</sup>代全ク之ヲ合  
併シラト爲シタリ唯時效ノ期限ヲ變シ動産ニ於テハ三年トシ不動産ニ於テ  
ハ十年又ハ二十年ト爲シタリ

(C) 最長期時效(Rescripto longissimi temporis)  
最長期時效ハテオドシムス(Todosus)二世ノ勅令ニ依リ立テタルモノニシテ訴訟  
ノ物上又ハ人上ナルヲ問ハス三十年後ヲ以テ消滅スルコトヲ決セリ故ニ正當  
理由善意ナキ者即チ盜賊ト雖モ三十年ヲ經過セシ後ニハ所有權ハ物權復取ヲ  
請求ヲ排斥スルコトヲ得然レトモ此等ノ者ハ所有權ヲ得取スルニ非ス單ニ物  
件ヲ返付スルノ義務ヨリ免除サレタルモノナリシカ故ニ若シ之ヲ讓與スルト  
キハ得取者ハ更ニ時效ヲ得ルヲ要シタリ

耶蘇教ノ寺院及ヒ其他宗教上ノ建設物ニ屬スル財産ハ四十年ノ占有ニ非サレ  
ハ同一ノ利益ヲ得ルコト能ハザリキ<sup>レ</sup>Justinian<sup>ハ</sup>更ニ特別ノ制ヲ立テ占有

ヲ取リシトキ 正當理由ナキモ善意ナリシ者ハ三十年又ハ四十年以後ニ於テ所有權ヲ得取ルモ其ト爲シタリ

第六節 Adjudicatio (配分宣告)

配分宣告ハ共有物分配ノ訴訟又ハ隣接セル土地ノ境界分畫訴訟ニ於テ見ル所ニシテ此訴訟ニ於テハ裁判官ハ分配言渡ヲ爲スノ威權ヲ有シ其信スル所ニ從ヒ當事者ノ一方ニ所有權ヲ歸スルノ權利ヲ有セリ  
物件ノ共有ニ於テハ其所有主タル數人ハ物件上等一ノ權利ヲ保有シ其一部又ハ全體ニ於テ絕對除外ノ權利ナク物件ヲ處分シ或ハ所有主タル行爲ヲ施スニハ共有者全數ノ承諾ヲ經サルヘカラサルヲ以テ隨テ容易ニ意見ノ衝突ヲ起シ紛争ノ起因ト爲ルモノナリ而シテ此ノ如キ狀態ヲ解釋セント欲セル物件ノ分配ヲ爲ササルヘカラス若シ物件ニシテ均等ニ分タルヘキトキハ共有者ハ各自其一部ヲ取ルモ若シ物件ノ狀態分割ニ不良ナルトキハ其全部ヲ以テ一人ニ歸シ他ノ共有者ハ金錢ヲ以テ賠償セラルルヲ得ヘシ然レトモ共有者ニシテ分配

上和協スルコト能ハサルトキハ常ニ訴訟ニ依頼スルヲ得ルモノナリ此場合ニ於テハ共有物分配訴訟ニ當レル裁判官ハ不分ノ狀態ヲ終局セシムルヲ任トシ上説セル如ク物件ノ性質形狀ニ從ヒ或ハ之ヲ共有者中ニ均分シ或ハ其全部ヲ舉クテ一人ニ歸シ他ヲ賠償セシムルノ權アリ然ルトキハ分配言渡ハ共有者中ノ一人カ物權上ニ有セシ權利ヲ變セス却テ他ノ共有者カ有セシ所ヲ以テ之ヲ完全ナラシム  
境界分畫ノ訴訟ニ於テハ隣接セル兩土地ノ間ニ存セル舊區域ヲ明瞭ナラシムルニ在リ分配言渡ノ生スヘキナキカ如クナレトモ時トシテ舊境界ノ判明スヘカラサルコトアリ又兩地ノ所有主ニ於テ新ニ之ヲ設定スルノ便利ナルコトアリ然ルトキハ裁判官ハ分配言渡ニ依リ土地ノ一部ヲ當事者一方ニ歸シ他ヲ賠償セシムルヲ得アリ  
第七節 法律 (Gesetz)  
羅馬ノ學者ハ或所有權得取ヲ以テ其基礎ヲ法律又ハ習慣ニ取レルモノト爲シ

別ニ之ヲ應得スルニ其内甲ハ當事者ノ意思ヲ推測セザルニ隨テ隨意的ナルモノ  
 ナリ乙ハ之ニ反シ不隨意的ナルモノトス例ヘハ甲種ニ於テ直接遺贈(legatum)ニ  
 列シ乙種ニ埋藏財實善意占有者ノ果實得取ヲ列スル如シ直接遺贈  
 三則シテハ後編ニ之ヲ讓リ埋藏財實ハ既ニ上文ニ之ヲ述ヘタルヲ以テ今單ニ  
 第三ノ得取ニ付テ言フニ其類ニ列シ且ハ一編ノ當事者ノ意思ヲ推測セザル  
 元來一物ヨリ生ズル所ノモノハ其果實又ハ生産物ナラバ分クタル物ニ附隨シテ  
 所有主ニ屬シ物ヨリ分離セラルル後非テハ獨立シタル所有權ノ目的ト爲  
 ルコトナシ然レトモ又例外トシテ果實以テ所有主以外ニ屬スルコトアリ例ヘハ  
 收買權ニ於ケル如ク又小作者ニ於ケル如シ其他此類ハ善意ノ占有主ニ於テ見  
 ル所ニシテ若シ占有者ニシテ果實ノ土地ヨリ分離セズレタルトキハ其何人ノ  
 行為タルニ關セズ唯當時占有ハ尙ホ善意ナリ然レバ以テ其所有ヲ得ルモノ  
 トスルコト成ルル者ノ對置權利ニ對シテハ其所有權中ニ收買權ニ對シテ其類  
 羅馬法ニ條文ハ果實ヲ以テ占有者ニ歸スルヲ理ヲ說明スルニ善意ノ占有者ハ  
 真正ノ所有主トシ地位ニ在ルヲ以テ之モ之ニ加フルル果實ハ通常我消セラ

同

ルモノ性質ヲ有スルヲ以テ占有者ハ之ヲ收買セザルニ隨テ之ヲ消費シ一旦所有主ノ  
 請求ニ應ジ盡ク之ヲ返還セザルニ付テハ其類ノモノ然レモ其時至シテ所有主ノ請求  
 怠慢ナク爲ルコト占有主ハ非常ノ損害ヲ受ケ得ルコト觀念ナリ來ルモノニテ  
 ノ故ニ羅馬ノ末年此觀念ヨリ生ズル結果トシテ較テ從前ノ規則ヲ變シ所有主  
 ノ請求スルモノニ仍ホ占有者ノ消費セザルヲ保存セシ果實之ヲ返還セザル  
 ヘカラスト決定シタリ故テ重ク其類ノ所有主ニ屬スル諸君ハ土地ヨリ分離セ  
 ザルモノニ對シテ其類ノ權利ハ其類ノ權利ニ關シテ其類ノ權利ハ其類ノ權利  
 第二ノ學科ニ對シテ其類ノ權利ハ其類ノ權利ニ關シテ其類ノ權利ハ其類ノ權利  
**第八節 附隨 (Accessio)**  
 附隨ハ各別ノ所有主ニ屬スル二箇ノ物件中所有主ニ歸スルモノノ附隨物  
 接續ナレバ附隨トシテ他ノ主ノ物ニ所有主ニ歸スルモノノ附隨物ニ對シテ  
 タル物件ハ其獨立シタル性質別失自他ノ主ノ物中ニ毀敗セズ其價值ヲ  
 增加シ之カ所有主ハ復タ其返還ヲ請求スルコト能ハス唯主タル物件ノ所有主  
 則チ不當利得ヲ賠償スルコトヲ羅馬ノ學問ニ於テ附隨ヲ以テ單無所有權ノ既存  
 七ノ境界外ニ擴張スルコトモ以下於所有權得取ノ方法ノ權權中ニ算セザリシ

カ後世羅馬法ノ解釋者ハ之ヲ以テ特別ナル取得ノ方法ト看做シタリキモ、  
 附隨ハ二箇ノ不動産又ハ二箇ノ動産或ハ一ノ不動産ト一ノ動産ノ間ニ注ス  
 ルヲ得ベシヨリ、  
 第一ノ場合其ニ二箇ノ不動産ノ間ニ於ケル場合ハ(1)河川ノ沿岸ノ土地並ニ土庫ノ  
 堆積ニ因リ増加シタルトキ(2)河川中ニ島嶼ヲ生シタルトキハ兩岸土地所有者  
 ノ河身中間線以內ニ在ル部分ヲ得(3)河川ヲ注流ニ變更ヲ來シタルトキハ舊流床  
 ノ乾燥シタル部分ハ兩岸土地ノ所有者ニ屬ス  
 第二ノ場合 二箇ノ動産ノ間ニ於ケル附隨ハ(1)車ニ加ヘタル輪銀製ノ肖像ニ  
 附加シタル銀ノ手摺ノ如キ重ナル物品ノ所有主ニ屬ス額板ノ上ニ描キタル繪  
 畫ニ於テハ異議アリタルカ竟ニ繪畫ヲ以テ主ト爲シタル果此等ノ場合ニ於テ附  
 加(Affection)ト名ク(2)二種同様ナル流動體ノ混同(Confusio)ヲ生シタルトキハ共有ト  
 爲リ和解又ハ訴訟ニ依リ分配スルヲ得(3)乾燥物例ハ其變賣時ノ混合(Commix-  
 ⑤)ニ於テ各所有主ハ原物ヲ請求スルヲ得半ニ於テ一ト之ヲ認取ルヲ得兩者  
 モ麥ニ於テハ之ヲ爲スヘカラ不故ニ裁判官ハ其鑑定スル所ニ從ヒ各所有主ニ

分配スルコトヲ得(4)他人ノ原料ヲ用ヒテ新ナル物品ヲ製作シタルトキ Specific-  
 ⑥)ニ於テ其原料所有者或ハ手工ヲ施シタル者ノ孰レニ屬スベキヤハ疑義無  
 セシ「サヒビニアン」派ハ此原料所有主ニ「プロキアア」派ノ學者ハ手工者ニ歸スル  
 キヲ主張セルカ「ジュスタニアン」ハ更ニ第三ノ意見ヲ採リ物品ニシテ原形ニ復ス  
 ヘカラナルモノ例ヘハ葡萄酒ヲ以テ酒ヲ造リタルトキハ如キニ於テハ之ヲ手工  
 者ニ與ヘ之ニ反シ金銀ヲ以テ美術品ヲ作りタル如キハ鑄解シテ原形ニ復スル  
 キトキハ原料所有主ニ歸シタリ此兩時ニ於テ原料所有者又ハ手工者ノ交互賠  
 償ヲ拂フヘキヤ明カナリ唯手工者ニ於テハ其之ヲ得シニハ其善意ナリシヲ必  
 要トス  
 第三ノ場合 土地ノ不動産ト動産トノ附隨ニ於テ(1)他人ノ材料ヲ以テ自己ノ土  
 地ニ建設シタルトキハ材料ノ所有主ハ之ヲ請求スル能ハス單ニ賠償ヲ得  
 ルノミ若シ建築者ノ材料ヲ竊取シタルトキハ其價ノ二倍ヲ拂ハサルベカラズ  
 然レトモ家屋ノ破壊シタルトキハ材料所有主ハ之ヲ請求スルコトヲ得(2)自己  
 ノ材料ヲ以テ他人ノ地上ニ建築シタルトキハ家屋ニシテ土地所有者ニ屬シ建築者

ニシテ善意ナリトモ損害ヲ請求スルヲ得若シ惡意ナリトモ法律上其行爲ヲ以テ贈與ヲ爲シタルモノト看做シ賠償ノ容ナク唯數科時代ノ末及世ノ家屋ノ破壊ナレタルトモ贈與ノ意思存在セザリシレバ證明シテ材料ヲ復取シ或ハ土地ニシテ毫毛被損ヲ被ラザルトモ除去スルコトヲ許シタリ

(3) 他人ノ地上ニ草樹木ヲ植テ又ハ穀物ヲ播種シタルトモ其根底ヲ生シタル以後之ヲ復取スルヲ得ス唯善意ナリシトキハ賠償ヲ請求スルコトヲ得ルノミ

**附節 所有權ノ消滅**

本來所有權ハ永存スヘキ性質ヲ有スルヲ以テ所謂其消滅ハ寧ろ移歸ニシテ所有權得取ノ數種ノ方法ハ又同時ニ其消滅ノ原因タリ然レトモ又時トシテ純粹ナル所有權ノ消滅アリ例ヘハ有形上物件ノ破壞家屋ノ燒失動物ノ死亡ノ如ク或ハ法律上ノ破壞ニシテ物件外ノ事由カヒタルトモ例ヘハ奴隸ノ解放チレ物件ノ神ニ供サレタルトモ加キ或ハ人ノ擁有地ノ物件ノ自然狀態無復歸モシトキ例ヘハ飼養セラル禽獸ノ飛逸セラル如ク此等ノ諸品ヲ毀損シタリテ

報 載

○最近判例要旨彙編ニ因リ基田發掘文書ノ行狀ニ關シテ人々發掘及發掘人ノ取極

一〇六 約束手形振出人ノ住所ノ記載ニ關シテ約束手形振出人カ其住所ノ地ヲ振出地上ニテ記載セザルモ法律ニ違背スルコトナシ(大審院明治三十四年五月五日第一民事部判決三)

一〇七 新ナル事實ノ申立上新ナル獨立ノ抗告理由ニ關シテ抗告人ニ於テ新ナル事實ノ申立ヲ爲シタルトモキハ抗告裁判所ヘ其主張ノ新事實尙正當ナルヤ否ニ審査判定セザルカラス不故ニ若シ之ヲ不問ニ付シタルトモ重要ナル訴訟手續ニ違背セザルモノニシテ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生ズルモノナシ(明治三十四年三月三十一日第一民事部判決)

一〇八 出納ニ關シテ町村長ノ權限由テ借入金ノ受領ノ如キ收入ノ受領ニ過キタル事項ハ町村收入稅ニ於テ之ヲ爲スルモノニシテ町村長ノ職務權限ニ屬スルモノニ非ス(明治三十五年四月六日第一民事部判決)



ノ偽證ヲ爲シ其結果偶々重罪及ヒ輕罪ヲ曲庇シタルトキト雖モ其所爲ハ一箇條  
 過キナルヲ以テ一罪上ニシテ處斷スヘク二罪トシテ處斷スヘクモ一ニ非ス(前三  
 十六年九月三日第三十八號公印監用公文書局造行使詐取財)  
 及偽證事件明治三十六年四月二十八日第二刑部取財)  
 一五、一ノ偽證ニ因ル二人以上ノ曲庇ハ二人以上ヲ曲庇格害スル爲メ偽  
 證ヲ爲シタル場合ニ在リテハ其行爲ハ一箇ノ供述ニ基キテ其罪ヲ成ルニ  
 成スルヲ止マラズテ多數ヲ構成ス(前明治三十六年九月八日第二刑部  
 取財)  
 一六、債權讓渡後ノ辨濟受領ト取同シ債權者カ其債權ヲ他人ニ讓渡シタ  
 ル後ト雖モ債務者ニ對シ適式ノ告知ナキ以上ハ債務者ハ債權者ニ對シ其辨濟  
 ヲ拒絶ノ權利ナキモノトス隨テ既ニ他人ニ讓渡シタル債權ヲ依然權利アリ有  
 ルモノノ如ク執上若クハ別人ニ讓渡シタル體ニ執ヒ其人ヲシテ債權ヲ取立テ  
 シメ又ハ自己之ヲ取立テタル所爲ハ債務者ノ決意ヲ左右スヘキモノニ非ズ  
 ハ欺罔ノ手段ト爲ス又債務者モ錯誤ニ陥リタルモノト云フヲ得タルヲ以テ  
 詐欺取財罪ヲ構成セズ(前明治三十六年九月三日第二刑部取財事件)

# 法學志林

第四十四號  
 六月十五日發行

一都代金十二錢郵稅一錢十部  
 前金郵稅共一圓二十錢  
 校友生後校外生ハ一部特價  
 郵稅共十一錢十部前金郵稅共  
 一圓

◎本誌ハ本號ヨリ大改良ヲ加ヘ掲載事項ヲ精選シ紙數ヲ增加シタリ

## 志林

◎最近判例批評(其九)  
 ◎自親下手未遂處罰  
 ◎課稅標準ヲ合算シタル營業稅ノ附加稅ニ付テ(續)  
 ◎判式會社ノ總會決議ノ無効宣言ヲ日任トスル手續規定  
 ◎大日本  
 ◎號賣代金不支拂ノ爲メ再號賣ニ付シタルモ代  
 ◎金減額ヲ生シタル場合ニ於ケル差額請求權  
 ◎手形上ノ債權ハ連帶債務ナリヤ  
 ◎命布ト公權ノ設定  
 ◎御事裁字權ト國際私法及ヒ國際刑法トノ關係  
 ◎郵船所有者ト荷送人ニ對スル運送狀ノ請求

## 解疑

法學博士 梅謙次郎  
 法學博士 若槻直通  
 法學博士 富谷龍太郎  
 法學博士 寺尾亭  
 法學士 吾孫子勝  
 法學士 松浦次郎  
 法學士 矢野龍溪  
 法學士 秋浦次郎  
 法學士 山雅次郎  
 法學士 加藤正治

## 散錄

○散錄ノ尻馬  
 尻馬山人  
 能美房太郎

## 寄書

○法人ノ理事ハ定款ノ規定ニ違反セザル總  
 會ノ決議ニ從フ義務アリヤ否ヤニ付テ  
 其他判例、雜報、記事數十件

發行所

和佛法律學校

# 特別法講義錄

第三號  
六月一日  
發行

本講義錄ハ○戶籍法(島田學士)○人事訴訟手續法(松岡學士)○特許注意匠法、商標法(杉本學士)○府縣制、郡制、市制、町村制(松浦學士)○供託法(塚田學士)○非訟事件手續法(横田學士)○不動產登記法(鈴木學士)○競賣法(吾孫子學士)○租稅法(若槻學士)○著作權法(水野博士)○公證人規則(松岡學士)○執達更規則(仁井田博士)ヲ掲載ス  
○毎月一回發行○月謝金十五錢

六月  
發行所  
**和佛法律學校**

明治三十六年六月十一日印刷  
明治三十六年六月十二日發行  
(定價金貳拾五錢)

編輯者  
東京市牛込區牛込北町十番地  
萩原敬之

印刷者  
東京市牛込區矢來町三番地  
小宮山信好

印刷所  
東京市芝區西久保明青町十一番地  
金子浩版所

發行所  
司法省  
指定  
**和佛法律學校**  
(電話番町百七十四番)  
東京市總町區富士見町六丁目十六番地

(明治二十二年十二月九日內務省許可)  
(明治三十五年十一月四日第三種郵便物認可 毎月十九日同一日五日六日八日十日十一日十二日十三日十五日十六日十七日十八日廿一日廿二日廿三日廿四日廿五日廿六日廿七日廿八日廿九日三十日發行)